

一 碇泊港 現ニ本船ノ碇泊シアル港ノ名ヲ記スヘシ
 一 輸出品 特別輸出品ノ名ヲ記スヘシ
 一 雇入期限 何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ
 右特別輸出港規則第二條ニ據リ雇入度候ニ付免狀御下付被下度此段相願候也
 但本船雇入御許可ノ上ハ特別輸出港ニ於テ船舶ニ對スル御規則ハ堅ク遵守可爲致候也
 何年何月何日

大藏大臣爵氏名殿

(特別輸出港ニ入港ノ期日切迫シ本船碇泊港ノ税關及特別輸出港税關出張所へ電報ヲ請ハントスル者ハ其碇泊港ノ出港日及特別輸出港ノ入港日ヲ追記出願スヘシ)

(雇主二人以上共同シテ出願スルトキハ各署名捺印スヘシ又代人ナルトキハ雇主及代人ノ住所氏名ヲ詳記シ代人ノ捺印スヘシ)

雇主 氏 名 印

何府何市何町何番地
 何縣何郡何村何番地
 何會社長(若シ會社ナ
 ルトキハ)

○昆布木材及板ヲ不開港ヨリ外國ニ輸出ノ件

明治二十四年十月
 勅令第百九十九號

朕昆布木材及板ヲ不開港ヨリ外國ニ輸出スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 大藏大臣ハ帝國臣民ニ限リ外國ニ輸出スル昆布木材及板ノ三品ヲ不開港ニ於テ外國通航ノ内國船ニ積載シ直ニ外國ニ航行スルノ特許ヲ與フルコトヲ得
 第二條 前條ノ特許ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ム
 第三條 本令ハ明治二十四年十月二十一日ヨリ施行ス

○昆布木材及板ヲ不開港ヨリ外國ニ輸出特許手續
 明治二十四年十月大藏省令第二十四號

本年勅令第百九十九號ニ據リ外國ニ輸出スル昆布木材及板ノ三品ヲ不開港ニ於テ外國通航船ニ積載シ外國ニ航行ノ特許ニ關スル手續左ノ通相定ム
 第一條 昆布木材及板ノ三品ヲ不開港ニ於テ外國通航船ニ積載シ外國ニ航行ノ特許ヲ得ントスル者ハ其都度左ノ書式ニ據リ大藏大臣ニ出願スヘシ
 (願書式)

- 不開港ヨリ貨物輸出特許願
- 一 輸出貨物 輸出貨物ノ名及數量ヲ記スヘシ
 - 一 船種 蒸氣又ハ帆走
 - 一 船名 何丸

一 仕出港 貨物積載港ニ向ケ出港セントスル開港ノ名ヲ記スヘシ
 一 外國仕向港 船舶ヲ仕向ル國及港ノ名ヲ記スヘシ
 右明年二十四年勅令第百九十九號及大藏省令第二十九號ニ據リ何國何港ニ於テ船積ノ上直チニ輸出仕度候間特許相願候也
 何年何月何日

何府何郡何町何番地
 何縣何市何村何番地
 何會社長(若シ會社ナ
 ルトキハ)

氏 名 印

大藏大臣氏名殿

(仕出港出港ノ期日切迫シ税關ニ電報ヲ請ハシ
 トスル者ハ仕出港出港日ヲ追記出願スヘシ)

第二條 前條ノ特許ニ據リ不開港ニ於テ輸出貨物ヲ積載セントスル船舶ハ其積載港管轄區内ノ開港ニ於テ税關官吏ノ乘監ヲ請フヘシ但積載港若シ税關出張所ヲ設ケタル港ナルトキハ官吏ヲ乘監セシメサルコトアルヘシ
 第三條 税關官吏乘監ニ係ル費用ハ出願人ヨリ辨納スヘシ
 第四條 貨物積載港ニ於テ貨物ヲ船積セントスルハ乘監官吏ノ検査ヲ受クヘシ
 第五條 貨物ノ輸出ニ關シ貨主ヨリ税關ニ對シ爲スヘキ一般ノ手續ハ貨物積載港管轄區内ノ開港ニ於テ出願人之ヲ履行スヘシ

○明治二十三年勅令第二百六十二號中追加改

正 明治二十四年十一月
 勅令第二百三十六號

朕明治二十三年十月勅令第二百六十二號中「肥前國稻江」ノ下ニ「豊前國門司」ノ五字ヲ加ヘ「丙」ノ字ヲ「三」ノ字ニ改ム

○吳軍港規則中改正 明治二十四年十一月

海軍省令第三號

明治二十三年八月海軍省令第十一號吳軍港規則第十三條左ノ通改正ス
 第十三條 海軍兵學校前面左圖直線以內ニ在リテハ何人ト雖ヒ司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ漁業ヲ爲シ若クハ船舶ヲ碇繋スルコトヲ得ヌ又兵學校用地ニ在リテ赤旗ヲ掲ケタル時ハ船舶該點線以內ヲ經過スヘカラス

○丁抹國政府ト船舶積量互認ノ件取極ニ付其

條規 明治二十四
 年十二月

船舶積量互認ノ件ニ關シ明治二十四年十二月一日帝國政府ト丁抹政府トノ間ニ取極メヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ明治二十五年一月一日ヨリ之

明治二十三年勅令第
 二百六十二號ハ法
 令類編第四卷第十
 八類四丁ニ載ス

吳軍港規則ニ法令
 類編第四卷第十八
 類一丁ニ載ス

ヲ施行ス。

第一條 西曆千八百六十七年十月一日以降丁抹國政府ヨリ發シタル登簿國籍證書ヲ受有スル同國ノ船舶ハ外國貿易ノ爲メ開キタル帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測度スルコトナシ

第二條 第一條ノ登簿國籍證書ニ記載シタル丁抹國帆船ノ實噸數ハ帝國帆船ノ登簿實噸數ト同一ナリト認ムヘシ

第三條 丁抹國帆船ノ受有スル第二條ノ登簿國籍證書補錄欄内ニ記載ノ英國測度法ニ據リ算出シタル實噸數ハ帝國帆船ノ登簿實噸數ト同一ナリト認ムヘシ

○海上衝突豫防法 明治二十五年六月法律第五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル海上衝突豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
海上衝突豫防法

總則

本法ハ海洋ト海洋接觸ノ場所トヲ問ハス凡テ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用非サルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用非サルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

船燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條 船燈ニ關ル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日没ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲クヘカラス

第二條 汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲クヘシ

- 一 前橋若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前橋ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ光明ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ掲クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鐵盤ノ二十點間ヲ照スベク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外ヘ十點間ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用フヘシ
- 二 右舷ニ綠短ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鐵盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ

用フヘシ

三 左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鐵盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四 本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル様ニ爲スヘシ

五 汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條 汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル、船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ増掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後橋ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ掲クルヲ得但シ此白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル様ニ爲スヲ要ス

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高さニ於テ最モ見得易キ所ニ（漁船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ）二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ（漁船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ）三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用井中央ノ一箇ハ白色豎菱形ヲ用ウヘシ
本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ掲クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スヘカラス難船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ掲クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲クヘカラス

第六條 小形船航行中天氣ノ模様ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ模様火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ様各舷ニ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ス且成ルヘク各舷正横後ノ二點ヨリ後方ヘ見得サル様ニ爲スヲ要ス

此ノ綠紅ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲綠燈ハ綠色、紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗リ且適當ノ隔板ヲ備置クヘシ

第七條 總積量四十噸未滿ノ漁船及構樞若ハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未滿ノ船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若之ヲ掲ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一 四十噸未滿ノ漁船

甲 船ノ前部又ハ烟突若ハ其ノ前面ニ於テ舷線上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ

乙 第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ掲クルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ掲クヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ掲クルヲ要ス

二 漁艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷線上九尺ノ所ヨリ下方ニ掲クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三 構樞若ハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未滿ノ船ハ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用井タル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第八條 水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲ストキハ他船ニ要スル燈ヲ掲クヘカラス單ニ周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ檣頭ニ掲ケ且十五分時ヲ超エ

サル間隙ヲ以テ閃火一箇又ハ數箇ヲ發スヘシ
水先船ニハ右ノ外縁紅ノ二舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ
又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ一時
之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ
爲スヲ要ス

水先人ヲ要スル船舶ヘ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ掲クル代リニ
隨時之ヲ表示シ又舷燈ヲ兩舷ニ掲クル代リニ一面ハ綠色、一面ハ紅色ノ
玻璃ヲ用井タル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ニ從テ之ヲ使用スルヲ
得

水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲サ、ルトキハ其ノ積量ニ應シテ他船ト
同一ノ燈ヲ掲クヘシ

第九條 凡ソ漁船其ノ業ニ從事スルトキハ本條各項ノ規定ニ依ルヘシ但シ
航行中ノモノ又ハ本條ニ規定ナキモノハ其積量ニ應シテ他船ト同一ノ燈
ヲ掲クヘシ

一 刺網ヲ用井テ漁業ニ從事スル船ハ最モ見得易キ所ニ於テ二箇ノ白
燈ヲ龍骨線上前後ニ五尺乃至十尺ヲ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリモ六
尺乃至十尺下方ニ掲クヘシ此ノ燈ハ周回少クモ三海里ノ距離ヨリ
見得ヘキモノタルヲ要ス

二 線網ヲ用井テ漁業ニ從事スル船ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

甲 汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇
ヲ掲ケ尙其ノ下方六尺乃至十二尺ノ所ニ白燈一箇ヲ増掲スヘシ
此三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マテハ白色其レヨリ正横後
ノ二點マテハ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及ホシ又増掲ノ白
燈ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘキモノタルヲ
要ス

乙 總積量七噸以上ノ帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ
照スヘキ白燈一箇ヲ掲クル外尙少クモ三十秒時間發火スヘキ紅
光焰管ヲ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近
寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ發ス
ヘシ本項乙ニ記載スル諸船地中海ニアリテハ紅光焰管ノ代リニ
他ノ閃火ヲ用ウルヲ得

本項甲乙ニ記載スル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモ
ノタルヲ要ス
丙 總積量七噸未滿ノ帆船ハ必スシモ本條第二項乙ニ記載スル白燈
ヲ掲クルヲ要セス然レトモ之ヲ掲ケサル場合ニ於テハ白色亮明
ノ光ヲ發スル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來

ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル
時間ヲ見定メテ其ノ燈ヲ最モ見得易キ所ニ表示シ且本條第二項
乙ニ規定シタル紅光焰管ヲ發シ或ハ其ノ焰管ノ代リニ他ノ閃火
ヲ發スヘシ

三 繩釣漁業ニ從事スル船碇泊若ハ停留セサルトキハ刺網ヲ用ヰタル
漁船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

四 漁船ハ本條ニ規定シタル燈火ヲ表示スルノ外何時ニテモ閃火ヲ發
スルヲ得但シ綵網其ノ他桁網ノ類ヲ以テ漁業ニ從事スル船ノ閃火
ハ船尾ニ於テ之ヲ發スヘシ然レトモ漁具ヲ船尾ニ繫キタル場合ニ
於テハ船首ニ於テ發スルヲ得

五 漁船碇泊スルトキハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一
箇ヲ表示スヘシ

六 漁船其ノ漁具ノ岩礁其ノ他障礙物ニ纏著シタル爲其ノ所ニ停留ス
ルトキハ碇泊船ト同一ノ燈ヲ表示シ且碇泊船ノ霧中信號ヲ爲スヘ
シ

七 霧中降雪其ノ他暴雨中刺網、綵網、桁網ノ類其ノ他繩釣ノ業ニ從事
スル漁船ニシテ總積量二十噸以上ナルトキハ漁船ナレハ漁笛又ハ
漁角、帆船ナレハ霧中號角ヲ用ヰ一分ヨリ多カラサル時間毎ニ一

聲ヲ發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴ラスヘシ

八 刺網、綵網又ハ繩釣漁業ニ從事スル帆船連航中晝間ニアリテハ最
モ見得易キ所ニ籃又ハ其ノ他ノ信號ヲ掲クテ近寄ル他船ニ其ノ漁船
ナルコトヲ表示スヘシ

本條諸項ノ漁船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス
第十條 他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ
又ハ閃火ヲ發スヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲置クヲ得然レトモ此ノ燈ハ少
クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ光明ノ光ヲ發シ
鍼盤ノ十二點間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨリ左右ヘ六點間宛射光ノ及
フヘキ様隔板ヲ裝置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ掲クヘシ

第十一條 長サ百五十尺未満ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體
上ヨリ二十尺ヲ超エサル所ニ白燈一箇ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ
光明ノ光ヲ發シ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノナルヲ要ス
長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺
以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲クテ且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ
前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ
本條船舶ノ長サハ本船船籍證書面ノ長サニ依ルヘシ

船路若ハ其ノ最寄ニ於テ乗揚ケタル船舶ハ本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇ヲ掲クヘシ

第十二條 各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條 本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラレ、船舶ニ増掲スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

第十四條 漁船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引下ケサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色形象一箇ヲ掲クヘシ

霧中信號
第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ

汽笛若ハ汽角
帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ
汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若ハ汽

角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及機關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ
霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ
二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間隔ハ大約一秒時タルヲ要ス

三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ

五 船舶普通ノ碇泊場外又ハ航行中ノ船舶ニ障礙ヲ及ホス虞アル場所ニ碇泊シタルトキハ汽船ナレハ汽笛若ハ汽角ヲ用非二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ長聲ヲ二發シ直ニ號鐘ヲ鳴ラスヘシ又帆船ナレハ霧中號角ヲ用非一分時ヨリ多カラサル 隙ヲ以テ二聲ヲ發シ

直ニ角鐘ヲ鳴ラスヘシ

六 他船ヲ引キテ運航スル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スハ妨ナシト雖他ノ信號ヲ爲スヘカラス

七 航路ニ餘地アリテ他船ノ航過スルニ障礙ナキコトヲ他船ニ通知セントスル汽船ハ短長短ノ三聲ヲ連發スルヲ得但シ其ノ三聲ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

八 海底電信線ハ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶近寄り來ル他船ノ霧中信號ヲ聞キタルトキハ三長聲ヲ連發シテ之ニ應スヘシ

九 船舶航行運轉自由ヲ得スシテ近寄り來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハサルトキニ際シ近寄り來ル他船ノ霧中信號ヲ聞キタルトキハ四短聲ヲ連發シテ之ニ應スヘシ

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信號ヲ爲サルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中速力

第十六條 霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速カラ

以テ進行スヘシ

汽船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ定メ得サルトキハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマテ其ノ運航ニ注意スヘシ

航方

衝突ノ危険ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄り來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其ノ方位儘ニ變更スルヲ認メサルトキハ危険アルモノト知ルヘシ

第十七條 二艘ノ帆船互ニ近寄りテ衝突ノ虞アルトキハ其ノ一船ヨリ左ノ

如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

- 一 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ
- 二 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ
- 三 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ
- 四 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ
- 五 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條 二艘ノ汽船正シク真向又ハ幾ント真向ニ行達フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ鍼路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ
 本條ハ兩船正シク真向又ハ幾ント真向ニ行達フテ衝突ノ虞アルトキニ限リ適用スヘシ兩船各其ノ鍼路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキニハ適用スヘカラス
 本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ幾ント真向ニ行達ヒタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ
 本條ハ晝間他船ノ我鍼路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス
 第十九條 二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ
 第二十條 帆船ト汽船ト互ニ近寄り衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 本法航方ニ依リ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ鍼路及速力ヲ保ツヘシ
 第二十二條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ横切ルヘカラス
 第二十三條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄りタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ
 第二十四條 總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラズ他船ノ航路ヲ避クヘシ
 總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニアリテ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其ノ追越船ヲ以テ本法ノ航路横切船ト爲サス故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマテ他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス
 晝間他船ヲ追越サムトスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クヘシ
 第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ
 第二十六條 航行中ノ帆船ハ綱或ハ繩ヲ用非テ漁業ニ従事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖モ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス

第二十七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

航路信號

第二十八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ

航行中ノ汽船他船ニ近寄り鐵路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ鐵路ヲ通知スヘシ

短聲一發 我船鐵路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船鐵路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船全速力ニテ後退ス

懈怠ノ責

第二十九條 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメサルモノトス

特例

第三十條 本法ハ地方長官ニ於テ規定シタル港川其ノ他内海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

難船信號

第三十一條 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

晝間信號

- 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス
- 二 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ表示ス
- 三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲クル遠隔信號ヲ表示ス

四 夜間信號ノ部ニ規定シタル榴彈或ハ火箭ヲ打揚ク

五 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス

二 船上ノ發焰(タール桶、油樽等ヲ燃焼スルノ意)

三 空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツ、度々打揚ク

四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附則

第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス
 第三十四條 明治十三年^七第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年^五第三十三號布告同規則追加同十八年^八第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九類 鐵道

○鐵道敷設法 明治二十五年六月法律第四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鐵道敷設法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 鐵道敷設法

第一章 總則

第一條 政府ハ帝國ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲漸次豫定ノ線路ヲ調査シ及敷設ス

第二條 豫定線路ハ左ノ如シ

中央線

- 一 神奈川縣下八王子若ハ静岡縣下御殿場ヨリ山梨縣下甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ伊那郡若ハ西筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道
- 一 長野縣下長野若ハ篠ノ井ヨリ松本ヲ經テ前項ノ線路ニ接續スル鐵道
- 一 山梨縣下甲府ヨリ静岡縣下岩淵ニ至ル鐵道

中央線及北陸線ノ連絡線

- 一 岐阜縣下岐阜若ハ長野縣下松本ヨリ岐阜縣下高山ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道

北陸線

- 一 福井縣下敦賀ヨリ石川縣下金澤ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道及本線
ヨリ分岐シテ石川縣下七尾ニ至ル鐵道
- 北陸線及北越線ノ連絡線
- 一 富山縣下富山ヨリ新潟縣下直江津ニ至ル鐵道
- 北越線
- 一 新潟縣下直江津又ハ群馬縣下前橋若ハ長野縣下豊野ヨリ新潟縣下新潟
及新發田ニ至ル鐵道
- 北越線及奥羽線ノ連絡線
- 一 新潟縣下新發田ヨリ山形縣下米澤ニ至ル鐵道若ハ新潟縣下新津ヨリ福
嶋縣下若松ヲ經テ白河、本宮近傍ニ至ル鐵道
- 奥羽線
- 一 福嶋縣下福嶋近傍ヨリ山形縣下米澤及山形、秋田縣下秋田青森縣下弘
前ヲ經テ青森ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ山形縣下酒田ニ至ル鐵道
- 一 宮城縣下仙臺ヨリ山形縣下天童若ハ宮城縣下石ノ巻ヨリ小午田ヲ經テ
山形縣下船形町ニ至ル鐵道
- 一 岩手縣下黒澤尻若ハ花巻ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道
- 一 岩手縣下盛岡ヨリ宮古若ハ山田ニ至ル鐵道
- 總武線及常磐線

- 一 東京府下上野ヨリ千葉縣下千葉、佐倉ヲ經テ銚子ニ至ル鐵道及本線ヨ
リ分岐シテ木更津ニ至ル鐵道
- 一 茨城縣下水戸ヨリ福島縣下平ヲ經テ宮城縣下岩沼ニ至ル鐵道
- 近畿線
- 一 奈良縣下奈良ヨリ三重縣下上柘植ニ至ル鐵道
- 一 大阪府下大阪若ハ奈良縣下八木又ハ高田ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和
歌山ニ至ル鐵道
- 一 京都府下京都ヨリ奈良縣下奈良ニ至ル鐵道
- 一 京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル鐵道
- 山陽線
- 一 廣島縣下三原ヨリ山口縣下赤間關ニ至ル鐵道
- 一 廣島縣下海田市ヨリ吳ニ至ル鐵道
- 山陰線
- 一 京都府下舞鶴ヨリ兵庫縣下豊岡、鳥取縣下鳥取、島根縣下松江、濱田ヲ
經テ山口縣下山口近傍ニ至ル鐵道
- 山陰及山陽連絡線
- 一 兵庫縣下姫路ヨリ生野若ハ笹山ヲ經テ京都府下舞鶴又ハ園部ニ至ル鐵
道若ハ兵庫縣下土山ヨリ京都府下福知山ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道

一兵庫縣下姫路近傍ヨリ鳥取縣下鳥取ニ至ル鐵道又ハ岡山縣下岡山ヨリ津山ヲ經テ鳥取縣下米子及境ニ至ル鐵道若ハ岡山縣下倉敷又ハ玉島ヨリ鳥取縣下境ニ至ル鐵道

四國線

一香川縣下琴平ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎ニ至ル鐵道
一德島縣下德島ヨリ前項ノ線路ニ接續スル鐵道
一香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下今治ヲ經テ松山ニ至ル鐵道

九州線

一佐賀縣下佐賀ヨリ長崎縣下佐世保及長崎ニ至ル鐵道
一熊本縣下熊本ヨリ三角ニ至ル鐵道及宇土ヨリ分岐シ八代ヲ經テ鹿兒嶋縣下鹿兒嶋ニ至ル鐵道
一熊本縣下熊本ヨリ大分縣下大分ニ至ル鐵道
一福岡縣下小倉ヨリ大分縣下大分、宮崎縣下宮崎ヲ經テ鹿兒嶋縣下鹿兒嶋ニ至ル鐵道
一福岡縣下飯塚ヨリ原田ニ至ル鐵道
一福岡縣下久留米ヨリ山鹿ヲ經テ熊本縣下熊本ニ至ル鐵道
以上ノ線路ニ變更増減ヲ要スルモノアルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之

ヲ決定スヘシ

第三條 鐵道工事ハ緩急ニ應シテ其ノ期限ヲ數期ニ區分シ每期ノ工事ヲ繼續事業トス

第四條 鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ

第五條 鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トス

第六條 鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル

第二章 第一期鐵道及公債募集

第七條 豫定線路中左ノ線路ハ第一期間ニ於テ其ノ實測及敷設ニ著手ス

一中央豫定線ノ内神奈川縣下八王子若ハ靜岡縣下御殿場ヨリ山梨縣下甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ伊那郡若ハ西筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道

一北陸豫定線ノ内福井縣下敦賀ヨリ石川縣下金澤ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道

一北越豫定線ノ内新潟縣下直江津又ハ群馬縣下前橋若ハ長野縣下豐野ヨリ新潟縣下新潟及新發田ニ至ル鐵道

一奥羽豫定線ノ内福島縣下福島近傍ヨリ山形縣下米澤及山形、秋田縣下秋田青森縣下弘前ヲ經テ青森ニ至ル鐵道

一山陽豫定線ノ内廣島縣下三原ヨリ山口縣下赤間關ニ至ル鐵道及廣島縣下海田市ヨリ吳ニ至ル鐵道

一九州豫定線ノ内佐賀縣下佐賀ヨリ長崎縣下長崎及佐世保ニ至ル鐵道及熊本縣下熊本ヨリ三角ニ至ル鐵道

一近畿豫定線ノ内京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル鐵道若ハ兵庫縣下土山ヨリ京都府下福知山ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道

一近畿線ノ内大阪府下大阪若ハ奈良縣下高田若ハ八木ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル鐵道

一山陰山陽聯絡豫定線ノ内兵庫縣下姫路近傍ヨリ鳥取縣下鳥取ヲ經テ境ニ至ル鐵道又ハ岡山縣下岡山ヨリ津山ヲ經テ鳥取縣下境ニ至ル鐵道若ハ岡山縣下倉敷ヨリ鳥取縣下境ニ至ル鐵道

以上線路ノ外ニ尙敷設ノ急ヲ要スヘシト認ムルモノアルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ更ニ第一期工事トシ特ニ公債ヲ募集スルコトヲ得

比較線路ハ政府ニ於テ更ニ調査ヲ遂ケ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ決定スヘシ

第八條 第一期鐵道工事ハ起工ノ年ヨリ向フ十二箇年ヲ以テ成效期限トス

第九條 第一期鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金六千萬圓ヲ限リ明治二十五年度ヨリ十二箇年間ニ漸次公債ヲ募集スヘシ

第十條 政府ハ第一期ニ敷設スヘキ鐵道線路ヲ實測シ每線路ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

第三章 私設鐵道ノ處分

第十一條 既成私設鐵道ニシテ第二條ニ依リ敷設スヘキ線路ノ爲買收ノ必要アリト認ムルモノハ政府ハ其ノ會社ト協議ノ上價格ヲ豫定シ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

第十二條 私設鐵道買收ノ費用ハ公債ヲ發行シ代價トシテ其ノ會社ニ交付スヘシ

第十三條 豫定鐵道線路中私設會社ニ敷設ヲ許可シタルモノハ其ノ會社ノ全部線路ヲ買收スルカ又ハ會社ノ申請ニ依リ相當ノ處分ヲナシタル上ニアラサレハ之ヲ敷設セス

第十四條 豫定鐵道線路中未タ敷設ニ著手セサルモノニシテ若私設鐵道會社ヨリ敷設ノ許可ヲ願出ル者アルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第四章 鐵道會議

第十五條 政府ハ鐵道會議ニ諮詢シテ左ノ事項ヲ施行ス

一鐵道工事著手ノ順序

一第十條ノ決定ニ基キ鐵道工事ノ都合ニ依リ其ノ都度募集スヘキ公債金

額

第十六條 鐵道會議ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○鐵道會議規則 明治二十五年六月 勅令第五十一號

朕鐵道會議規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道會議規則

第一條 鐵道會議ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ其諮詢ニ應シ左ノ事項ヲ審議ス

ルモノトス

一 鐵道敷設法第十五條ニ掲ケル事項

二 新設鐵道ノ線路及設計並工費豫算

三 私設鐵道買收ノ方法順序

四 汽車發着ノ度數及運賃定率ニ關スル事項

五 技術上ノ規程ニ關スルモノヲ除ク外鐵道運輸規則及鐵道警察規則ニ

關スル事項

六 其他內務大臣ノ諮詢スル事項

第二條 鐵道會議ハ鐵道ニ關スル事項ニ付主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 鐵道會議ハ事務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ內務大臣ノ認可ヲ請フヘ

シ

第四條 鐵道會議ハ議長一人議員二十人及臨時議員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

內務省及鐵道廳高等官四人陸軍省及參謀本部高等官二人大藏省海軍省農商務省遞信省高等官各一人ハ議員中ニ加フヘキモノトス

第五條 議長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官ノ内ヨリ命スヘキ議員及臨時議員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其他ノ

議員及臨時議員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

議員ノ任期ハ三年トス但滿期ノ後再任セラルヽコトヲ得

第六條 議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其決議ヲ內務大臣及主任各省大臣ニ具申ス

第七條 議長事故アルトキハ其指名シタル議員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第八條 鐵道會議ニ幹事一人ヲ置キ奏在官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ受ケテ庶務ヲ整理ス

第九條 議長議員臨時議員及幹事ハ無俸給トス但他ニ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニ限リ一箇年五百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十條 鐵道會議ニ書記ヲ置ク議長幹事ノ指揮ヲ受ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

書記ハ内務局又ハ鐵道廳屬ヲ以テ之ニ充ツ

第二十類 郵便 電信

○郵便

○第四種郵便物營業見本及雛形ノ帶紙包紙ニ

記載方明治二十四年九月
遞信省令第十四號

第四種郵便物トシテ差出スヘキ營業品見本及雛形ハ其帶紙包紙等ノ表面ニ營業品見本若クハ營業品雛形ト記載シ且ツ差出人受取人雙方氏名ノ上又ハ傍ニ業名ヲ附記スヘシ若シ差出人又ハ受取人ノ一方營業者ナルトキハ其一方ニノ業名ヲ附記スヘシ此記載ナクシテ差出ストキハ前記ノ郵便物ニアラサルモノト見做シ取扱ヒヲ爲スヘシ

○郵便貯金條例施行細則第二十條但書追加明治
五年一月
遞信省令第一號

明治二十三年省令第二十三號郵便貯金條例施行細則第二十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但拂戻證書ハ其拂渡局ニ於テ便宜請求人ニ直ニ交付スルコトアルヘシ

○第三種郵便物ノ認可ヲ經タル定時印刷物號

郵便貯金條例施行細則ハ法令類編第五丁ニ載ス

外課稅方 明治二十五年一月
遞信省令第二號

第三種郵便物ノ認可ヲ經タル定時印刷物ノ號外ハ次號ノ發行期ヲ待ツ能ハサル緊急ノ時事ヲ報道スルモノニ限リ第三種郵便物トシ其他ハ總テ第四種郵便物トス

○第三種郵便物認可規則 明治二十五年二月
遞信省令第四號

第三種郵便物認可規則左ノ通り相定ム

第三種郵便物認可規則

第一條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケントスル定時印刷物ノ發行人ハ全部印刷シタル見本一部ヲ添へ願書ニ左記ノ事項ヲ記載スヘシ

一 題號

二 記載事項ノ性質種類

三 發行ノ定日

四 發行所

五 發行人(官廳會社學校協會等ハ其代表人)ノ居所氏名

本條ノ規定ニ遵由セサル願書ハ之ヲ受理セス

第二條 前條ノ發行人ハ其印刷物ニ付文書ヲ以テ左記ノ諸件ヲ證明スヘシ

一 毎月一回以上逐號定期發行スルコト

二 記載事項ノ性質終期ヲ豫定ス可ラサルコト

三 書籍ノ性質ヲ有セサルコト

四 發行ノ目的政事時事學術商事工藝其他公共ノ性質アル事項ヲ報道論議スルニ在ルコト及廣ク之ヲ公衆ニ發賣スルコト

本條ノ證明ヲ爲サル印刷物ハ第三種郵便物トシテ之ヲ認可セス

第三條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ニハ其題號、番號、認可及發行ノ年月

日、遞信省認可ノ文字ヲ見易キ場所ニ印刷スヘシ

第四條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ニ左記ノ異動ヲ生スルトキハ發行人代表人ヨリ七日以内ニ届出ツヘシ

一 題號、紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類、發行所又ハ發行定日ヲ變更シタルトキ

但紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類ヲ變更シタルトキハ見本一部ヲ差出ス可シ又發行所ヲ變更シタルトキハ舊發行所ヲ記載スヘシ

二 發行人轉居又ハ變更ノトキ

但變更ノトキハ舊發行人ノ氏名ヲモ記載スヘシ

三 廢刊又ハ發行禁止ノトキ

四 第二條各項ノ中ニ異動アリタルトキ

第五條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ニシテ前條各項ノ異動ニ依リ第二條各項ノ條件ノ一ヲ闕クニ至リタルトキハ其認可ノ效ヲ失フ
認可ノ效ヲ失ヒタル印刷物ハ認可ヲ得サルモノト見做ス
第六條 第四條ノ届出ヲ期限内ニ爲サ、ル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第七條 本令發布ノ日以前ニ第三種郵便物トシテ認可ヲ受ケタル定時印刷物發行人(代表人)ハ本令第一條第二條ニ依リ明治二十五年三月三十一日迄ニ更ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ従前ノ認可ハ該日限ヲ以テ其效ヲ失フ

○配達證明郵便規則 明治二十五年三月 遞信省令第八號

配達證明郵便規則左ノ通相定メ明治二十五年五月十六日ヨリ施行ス

配達證明郵便規則

第一條 配達證明郵便ハ配達局ノ證明書ヲ以テ其郵便物ノ正ニ配達シタルコトヲ證明スルモノトス

第二條 郵便差出人其郵便物配達ノ證明ヲ得ントスル片ハ之ヲ差出局所ニ請求スルコトヲ得

第三條 配達證明書ハ配達局ヨリ之ヲ差出人ニ送付ス可シ

第四條 配達證明郵便ハ書留郵便物ニ限ルモノトス

第五條 配達證明手数料ハ郵便物ノ何程ニ拘ハラズ參錢トス

其手数料ハ前納ニ限ルヘシ

第六條 配達證明手数料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第七條 配達證明郵便物ハ其表面ニ配達證明ト記載スヘシ

第八條 此規則ハ外國郵便ニ適用セス

○三錢郵便切手發行 明治二十五年五月 遞信省令第十一號

三錢郵便切手左ノ見本ノ通發行ス(見本略之)

○小包郵便法 明治二十五年五月 法律第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル小包郵便法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小包郵便法

第一條 何等ノ物品ヲ問ハス左ニ記載スルモノヲ除ク外ハ小包郵便物トシテ之ヲ郵便ニ差出スコトヲ得

第一 郵便條例第十六條第一項乃至第三項ノ物品但シ第二項ノ物品ハ郵便局ノ承認ヲ受ケテ郵便ニ差出スコトヲ得

第二 信書又ハ信書ノ性質ヲ有スルモノ若ハ音信文記入ノ物品

第二條 小包郵便物ハ郵便料ノ外ニ保險料ヲ納付シテ之ヲ價額登記ノ小包郵便物ト爲スコトヲ得

但シ其ノ價額ハ實價ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 小包郵便物ヲ其ノ受取人ニ交付セス又ハ差出人ニ還付セサル前ニ生シタル損害ニ付テハ政府其ノ賠償ノ責ニ任ス

第四條 小包郵便料、保險料、賠償金額并ニ小包郵便物ノ容積重量及價額登記ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 左ノ場合ニ係ル損害ハ政府其ノ賠償ノ責ニ任セス

第一 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因ルトキ

第二 物品自己ノ性質ニ因ルトキ

第三 差出人ノ過誤怠慢ニ因ルトキ

第四 本法郵便條例及其ノ施行ニ關スル命令ヲ遵守セスシテ郵便ニ差出シタルトキ

第六條 小包郵便物配達ノ際其ノ外部ニ破損ノ痕迹ナク且重量ニ變異ナキトキハ政府損害賠償ノ責ニ任セス受取人若ハ差出人ニ於テ異議ナク該郵便物ヲ受領シタルトキ亦同シ

第七條 小包郵便物損害ニ對スル賠償ノ請求ハ其ノ郵便物ノ差出人ヨリ遞

信大臣ノ指定スル郵便局ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ郵便料ノ返付ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ請求期限ハ郵便物差出ノ日ヨリ三箇月トス此ノ期限ヲ經過スルトキハ政府其ノ責ヲ免ル

第八條 賠償又ハ郵便料ノ返付ニ關シ郵便局ノ通知ヲ受ケ之ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 政府賠償ヲ爲シタルトキハ其ノ郵便物若ハ損害ニ付賠償受領者ノ有スル所有權若ハ第三者ニ對スル請求權ヲ當然承繼ス但シ亡失シタル郵便物ヲ發見シタル場合ニ於テ差出人ハ受領シタル賠償金及郵便料ヲ返納シテ其ノ物品ノ還付ヲ請求スルコトヲ得其ノ請求期限ハ亡失郵便物發見ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月トス

第十條 郵便事務ニ關シ郵便官署ノ間相互遞送スル小包郵便物ハ郵便料ヲ免除ス

第十一條 小包郵便物ノ轉送又ハ還付ニ對スル郵便料ヲ納メサル者及之ヲ徵收セサル者ハ郵便條例第二百四十條ノ例ニ據リ之ヲ處斷シ小包送票ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ル者ハ同條例第二百四十一條ノ例ニ據リ之ヲ處斷ス

第十二條 第一條第二ニ掲クルモノヲ小包郵便物トシテ差出シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本法ノ施行細則ハ遞信大臣之ヲ定ム
第十四條 本法及其ノ施行ニ關スル命令ニ明文ナキ事項ハ郵便條例ヲ準用ス

附則

第十五條 此ノ法律ハ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス

○郵便聯合國郵便切手保護法 明治二十五年六月 法律第三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル郵便聯合國郵便切手類保護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便聯合國郵便切手類保護法

第一條 郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手、封皮、葉書又ハ帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 已ニ貼用シタル郵便聯合條約國政府發行ノ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 第一條ニ記載シタル罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四條 第一條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年

以下ノ監視ニ附ス

附則

第五條 此ノ法律ハ明治二十五年七月一日ヨリ施行ス

○小包郵便物郵便料保險料賠償金額容積重量 價額登記制限 明治二十五年五月 勅令第五十七號

朕小包郵便物ノ郵便料、保險料、賠償金額、容積、重量及價額登記制限ノ制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 小包郵便料ハ小包郵便物ノ重量及其差立郵便局ヨリ配達郵便局マテノ里程ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ徵收ス

第二條 郵便局市外ニ送達スル小包郵便物ハ其重量ニ從ヒ別ニ左ノ郵便料ヲ加減ス

小包郵便物一箇重量六百匁マテ 貳錢

同 一貫匁マテ 四錢

第三條 小包郵便物ノ容積及重量ハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

容積
長 曲尺二尺
幅 曲尺二尺
厚 曲尺二尺

電信線電話線ノ柱木敷地手當金ノ交付ヲ望マサルモノアルキハ其應限リ之ヲ交付セス其都度人名及柱木ノ員數ヲ本大臣ニ報告スヘシ但客年法律第五十八號實施ノ日ヨリ本年九月三十日迄ニ係ルモノハ本年十月三十一日ヲ限リ取纏メ之ヲ報告スヘシ

○電氣事業營業者取締方
明治二十四年八月
 遞信省訓令第七號

警視廳 北海道廳 府縣

自今其管下ニ於テ電氣事業ヲ營マントスルモノアルトキハ取締方法ヲ設ケ本大臣ノ認可ヲ得テ後之ヲ許可スヘシ現ニ其事業ヲ營ムモノニ在リテハ現在實行スル取締方法ヲ詳具シ本年十月一日迄ニ之ヲ本大臣ニ報告スヘシ

○電信局開始等ニ附キ照會ヲ受ケタルキ町名

及里數取調送付方
明治二十四年九月
 遞信省訓令第十號

北海道廳 府縣

新ニ電信局所ヲ開始スルトキ若クハ既設電信局所電報配達町程表ノ改正ヲ要スルトキハ電報配達町程調査ノ爲メ町村名及里程ノ取調方ヲ監督一等郵便電信局又ハ當該電信局所ヨリ照會スヘキニ依リ其應ハ左ノ書式並備考ニ照準調表ヲ製シ照會ヲナシタル局所ニ之ヲ送付スヘシ

但町程表中不完全ノ箇所取調方照會ヲ受ケタルトキハ本書式ニ準據スルヲ要セス

書式

電報配達町程調表

何府縣又ハ總

何國

何々郵便電信局又ハ電信取扱所

何市何區	何町同上	何町何村大字	何里同上
何町	以內何々町	何里何町何島	以內何々字何何
何郡何町大字	以內何里何町何島	陸何里何町	以內
何郡	以內何里何町何島		
何村	以內何里何町何島		
何國何郡	以內何里何町何島		
部ノハ	以下此例ニ準ス		

備考

一地名イロハ分ハ大字名(大字名ナキト)ノ頭字音ニ依ルヘシ
 一郡市區名又ハ本町村名ハ大字名ノ肩書トシ(大字名ナキトキハ郡市區)且字名アルモノハ之ヲ大字名ノ下ニ記スヘシ
 但甲國ニアル局所ノ町程表ニ乙國ノ町村名ヲ記スルトキハ郡名ノ上ニ猶其國名ヲ冠スヘシ
 一郡市區町村大字又ハ字名ニシテ其讀方ニ據アルカ又ハ普通ノ讀方ニ據ラサルカ若クハ方言アルモノ、類ハ凡テ傍訓ヲ附スルモノトス
 一里程ハ其局ヨリ起算シ町村ノ中央迄ヲ以テ定メ九町ヲ單位トシテ計算スヘシ例ヘハ兩九町迄ヲ九町以内トシ之ニ超ユルトキハ兩十八町迄ヲ十八町以内ト記載シ二十七町ヲ超ヘテ三十六町迄ハ一里トシ其以上ハ何里何町ト記スヘシ
 但島嶼アルトキハ海何里何町ト記スヘシ
 一本表ニハ郡區町村大字等ノ位置ヲ示シタル略圖ヲ添付スルモノトス

○大阪神戸間及同市内電話使用料電話料金額

明治二十五年四月 逓信省令第九號

電話交換規則第十一條ニ掲クル使用料ハ大阪神戸ノ兩市内ニ於テハ一箇所ニ付年額三十五圓同則第十五條ニ掲クル電話料ハ同市内ニ於テハ一通信時五錢大阪神戸間ニ於テハ一通信時十五錢ト定ム

明治二十三年省令第八號ハ法令類編第三卷第二十類六十丁ニ載ス

○明治二十三年省令第八號(東京市内電話使用

料)電話料金額)中改正 明治二十五年四月 逓信省令第十號

明治二十三年四月逓信省令第八號中四十圓ヲ三十五圓ニ改正シ來ル七月一日ヨリ施行ス

整理公債取扱順序
ハ法令類編第二卷
六百七十五丁ニ載
ス

第二十一類 公債 預金

○公債

○整理公債取扱順序中改正 明治二十五年三月
大藏省令第五號

明治十九年^十大藏省令第三十號整理公債取扱順序第二十六條中「預リ證書
ノ四字ハ總ヘテ「請取書」ノ三字ニ改ム

○預金

○預金拂込書差出方 明治二十五年三月
大藏省訓令第十一號

金庫出納役

預金拂込書送付方ノ儀明治二十三年當省訓令第八十九號ヲ以テ訓令及ヒ置
候處本年四月一日以降預金受渡事務順序第三十四條ノ受入報告表ト共ニ當
省預金局ヘ差出スヘシ

第二十二類 貨幣 度量衡

○貨幣

○第二十四第二十六第八第百二十六國立銀行發行紙幣引換延期明治二十四年八月大藏省令第二十二號

飯山第二十四國立銀行大阪第百二十六國立銀行須賀川第百八國立銀行大阪第二十六國立銀行發行紙幣引換期限ノ儀今般更ニ左ノ通延期ス右期限後ハ政府ニ於テ一切引換ノ義務ヲ負ハス

- 飯山第二十四國立銀行 明治二十七年三月三十一日迄
- 大阪第百二十六國立銀行 同 二十七年六月三十日迄
- 須賀川第百八國立銀行 同 二十七年十二月三十一日迄
- 大阪第二十六國立銀行 同 二十八年六月三十一日迄

○造幣規則中改正明治二十四年十二月勅令第二百三十八號

朕造幣規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
造幣規則中左ノ通改正ス

第十二條 精製分析ヲ要スル地金ヲ輸入シタルトキハ其地金ノ種類ニ應シ

造幣規則ハ法令類
編第二卷七百五丁
ニ載ス

左ノ精製分析料ヲ收入スヘシ但其他金千分中金銀七百五十分以上ヲ含有セザル下キハ需ニ應セズ
 精製スヘキ地金
 精製料

一千分中金銀九百五十分以上	純金拾オン	純金拾オン	金六拾參錢
同	同	同	金拾七錢
同	同	同	金六拾九錢
同	同	同	金拾九錢
同	同	同	金七拾六錢
同	同	同	金貳拾貳錢
同	同	同	金八拾四錢
同	同	同	金貳拾六錢
同	同	同	金九拾參錢
同	同	同	金參拾壹錢

本令ハ明治二十四年十二月七日ヨリ施行ス

○第三十三國立銀行發行紙幣通用禁止 明治二十五年七月十七號
 勅令第六十七號

朕東京第三十三國立銀行紙幣通用禁止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京第三十三國立銀行發行紙幣自今通用ヲ禁止ス

○同上紙幣引換方 明治二十五年七月
 大藏省告示第三十五號
 本年勅令第六十五號ヲ以テ通用ヲ禁止セラレタル東京第三十三國立銀行發行紙幣引換方ノ儀日本銀行ヘ合達シタルニ付右所持人ハ來ル明治二十八年七月十九日限リ同銀行ヘ申出引換ヲ請フヘシ期限經過ノ後ハ政府ハ引換ノ責ニ任セズ

○度量衡

○度量衡器ノ制限、製作修覆及販賣ノ免許並檢定ニ關スル規則 明治二十四年八月
 勅令第七十七號
 朕度量衡器ノ制限、其ノ製作、修覆及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 度量衡器ノ種類形狀及物質ヲ定ムルコト左ノ如シ

度量衡器		形狀	物質	種類
直尺	直尺	七尺以下	金屬、象牙、骨、竹、木	二メートル以下
鯨尺	一尺	二尺		三尺

量器														
楡		鐵葉					屬							
一合	五勺	一升	五合	二合五勺	二合	一合	五勺	一斗	五升	二升	一升	五合	二合五勺	二合
二〇、二二	一六、〇四	四三、五四	三四、五六	二七、四三	二五、四六	二〇、二二	一六、〇四	九三、八〇	七四、四五	五四、八六	三四、五六	二七、四三	二一、七七	二〇、二二
六四八二、七〇	三三四一、三五	六四八二、七〇	三三四一、三五	一六二〇、六七	一二九六、五〇	六四八二、七〇	三三四一、三五	六四八二、七〇	三三四一、三五	二九六五、〇〇	六四八二、七〇	三三四一、三五	一六二〇、六七	一二九六、五〇
二「デシリットル」	二「デシリットル」		二「リットル」	一「リットル」	五「デシリットル」	三「デシリットル」	二「デシリットル」	二十「リットル」	十「リットル」	五「リットル」	二「リットル」	一「リットル」	五「デシリットル」	二「デシリットル」
六三、四	五〇、三		一三六、六	一〇八、四	八六、〇	六三、四	五〇、三	二九四、二	二三三、五	一八五、三	一〇八、四	八六、一	六八、三	五〇、三
〇、二〇	〇、一〇		二、〇〇	一、〇〇	〇、五〇	〇、二〇	〇、一〇	二〇、〇〇	一〇、〇〇	五、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	〇、五〇	〇、二〇

量器														
金		鏈狀金					細帶狀金							
一合	五勺	二勺	一勺	一合	五勺	二合	一合	五勺	二合	一合	五勺	二合	一合	五勺
一六、〇四	一二、七三	九、三六	七、四五	一六、〇四	一二、七三	九、三六	七、四五	一六、〇四	一二、七三	九、三六	七、四五	一六、〇四	一二、七三	九、三六
六四八二、七〇	三三四一、三五	二九六、五四	六四八、二七	六四八二、七〇	三三四一、三五	二九六、五四	六四八、二七	六四八二、七〇	三三四一、三五	二九六、五四	六四八、二七	六四八二、七〇	三三四一、三五	二九六、五四
二「デシリットル」	五「センチリットル」	二「センチリットル」	一「センチリットル」	二「デシリットル」	五「センチリットル」	二「センチリットル」	一「センチリットル」	二「デシリットル」	五「センチリットル」	二「センチリットル」	一「センチリットル」	二「デシリットル」	五「センチリットル」	二「センチリットル」
三九、九	三一、七	二一、四	一八、五	三九、九	三一、七	二一、四	一八、五	三九、九	三一、七	二一、四	一八、五	三九、九	三一、七	二一、四
〇、一〇	〇、〇五	〇、〇二	〇、〇一	〇、一〇	〇、〇五	〇、〇二	〇、〇一	〇、一〇	〇、〇五	〇、〇二	〇、〇一	〇、一〇	〇、〇五	〇、〇二

量器容量及寸法ノ公差		各種斗概ノ徑及長サ
量器(各種ノ木製、鐵製、銅製ノモノ及二升又ハ五リットル以上ノ金屬製ノモノ)ノ容量 一升以下 一厘 二升以上 二厘 二リットル以下 〇.三 三リットル以上 〇.八		全量ノ百五十分ノ一 一厘 二厘 〇.三 〇.八
量器(玻璃製ノモノ)ノ徑及方 一 二 五 二合 二合五勺 五合		一分 一分 一分 一分 一分 一分
量器(鐵製ヲ除キ他ノ金屬製一升)水重ノ公差 一 二 五 二合 二合五勺 五合		〇.〇五 〇.〇五 〇.一〇 〇.二〇 〇.二〇 〇.二〇 〇.三〇 〇.四〇 〇.五〇

量器(玻璃製)水重ノ公差		衡器ノ公差	
一	升	二、〇〇	二リットル
五	勺	〇.三	二「デシリットル」
一	合	〇.五	二「デシリットル」
二	合	一、〇	五「デシリットル」
二	合	一、〇	五「デシリットル」
二	合	一、二	二「リットル」
五	合	一、五	二「リットル」
一	升	三、〇	二「リットル」
衡器ノ公差			
分銅五分		〇.〇〇五	分銅一「グラム」以上
分銅一匁以上		〇.〇〇五	分銅一「グラム」以上
分銅一匁又ハ五匁マテ		〇.〇一〇	分銅一「グラム」以上
分銅十「グラム」以上		全重ノ千分ノ一	分銅一「グラム」以上
分銅十「グラム」又ハ		全重ノ百分ノ一	分銅一「グラム」以上
分銅五匁又ハ		全重ノ百分ノ一	分銅一「グラム」以上
分銅一「グラム」未滿		一度目ノ二分ノ一ニ相當スル重サ	分銅一「グラム」以上
目盛		一度目ノ二分ノ一ニ相當スル重サ	分銅一「グラム」以上

度器ノ各目盛ノ公差ハ前項定限ノ二分ノ一トス
 第四條 檢定スヘキ度器ノ目盛及分銅ノ最小定限ヲ定ムルコト左ノ如シ但
 シ量器ハ其ノ全量ノ外他ノ目盛ヲ檢定セス

度器ノ目盛

五厘

(一尺以下ノ度器)

一分

(十尺未滿ノ度器)

一寸

(十尺以上ノ度器)

鯨尺一分

(各種鯨尺度器)

一「ミリメートル」

(一「メートル」以下ノ度器)

五「ミリメートル」

(五「メートル」未滿ノ度器)

五「センチメートル」

(五「メートル」以上ノ度器)

分銅

一厘

一「センチグラム」

第五條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許年限ハ十五箇年トス

第六條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ヲ願出ル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ

詳記シタル營業ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ

製作、修覆ヲ願出ル者

一製作場、修覆場ノ位置及構造

二裁作、修覆セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質

三資本金

四製作、修覆ニ使用スヘキ技師、職工ノ員數及其ノ職業別並ニ諸器械ノ種類

販賣ヲ願出ル者及製作者ニシテ販賣ヲ兼スル者

一販賣所ノ位置及構造

二販賣セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質

三資本金

四販賣セントスル度量衡器ノ製作者、修覆者又ハ輸入者ノ住所、姓名及營業所

農商務大臣前項營業ノ設計ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ願書ヲ却下スヘシ

第七條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受タル者其ノ營業ノ設計

ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受クル者ハ左ノ免許料ヲ

納ムヘシ

度器、量器又ハ衡器ノ製作 金拾五圓

度器、量器又ハ衡器ノ修覆 金拾貳圓

度器、量器又ハ衡器ノ販賣 金五圓

金	
鯨尺 三尺	・一、〇
一尺以下	二、五
三尺以下	二、五
七尺以下	五、〇
十八尺以下	五、〇
六十尺以上	二五、〇
六十六尺以下	五〇、〇
曲リ尺各種	三、五
半「メートル」以下	五、〇
一「メートル」以下	六、〇
二「メートル」以下	七、五
五「メートル」以下	七、五
十「メートル」以上	五〇、〇

第九條 度量衡器ノ檢定ヲ受クルモノハ左ノ檢定料ヲ納ムヘシ
二段以上目盛シタル度器ハ一段毎ニ其ノ檢定料ヲ納ムヘシ

竹、木、骨、象牙、牙	
一尺以下 一分目	〇、五 ^錢
一尺以下(五厘目)	一、〇
三尺以下(二分目以上ノ目)	一、〇
七尺以下	四、〇
半「メートル」以下	二、五
一「メートル」以下	四、〇
二「メートル」以下	五、〇
鯨尺 一尺	〇、五
鯨尺 二尺	一、〇

秤		臺		桿	
其ノ他ノモノ	二〇、〇	五十貫以下	五〇、〇	二貫以下 (目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)	四、〇
五十貫以下	五〇、〇	百五十貫以下	一〇〇、〇	二貫以下 (目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)	八、〇
以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	一〇〇、〇	二百「キログラム」以下	五〇、〇	二貫ヲ超ヘ十貫未滿	一〇、〇
二百「キログラム」以下	五〇、〇	五百「キログラム」以下	一〇〇、〇	十貫以上三十貫マテ	二〇、〇
以上二百「キログラム」マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	一〇〇、〇	以上十貫マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	一〇〇、〇	七「キログラム」以下	八、〇
二貫以下 (目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)	四、〇	七「キログラム」ヲ超ヘ「百キログラム」マテ	二〇、〇	以上十「キログラム」マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	二〇、〇
二貫以下 (目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)	八、〇				
二貫ヲ超ヘ十貫未滿	一〇、〇				
十貫以上三十貫マテ	二〇、〇				
以上十貫マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	二〇、〇				
七「キログラム」以下	八、〇				

秤	
七「キログラム」ヲ超ヘ「百キログラム」マテ	二〇、〇
以上十「キログラム」マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	二〇、〇

第十條 第八條ノ免許料及第九條ノ檢定料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第十一條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ左ノ身元保證金ヲ納ムヘシ

度量製作	金二百圓
量器製作	金二百圓
衡器製作	金二百圓
木材、象牙、骨製桿秤	金二百圓
天科、分銅、臺秤及金屬製桿秤	金五百圓
度器修覆	金二百圓
量器修覆	金二百圓
衡器修覆	金二百圓
木材、象牙、骨製桿秤	金二百圓
天秤、分銅、臺秤及金屬製桿秤	金二百圓
度器販賣	金百圓
量器販賣	金百圓

衡器販賣

金百圓

○同上規則第九條表中追加 明治二十四年十一月 勅令第二百三號

朕度量衡器ノ制限、其ノ製作、及修復販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十四年勅令第七十七號第九條度量衡檢定料量器表中左ノ通追加ス

檜、 榧、	五「デシリットル」以下	一、五 <small>錢</small>
銀、 杏、	二「リットル」以下	二、〇
姫子 松、	五「リットル」	三、〇
鐵 葉	十「リットル」	四、〇
	二十「リットル」	六、〇
	五「デシリットル」以下	三、五
金屬 (鐵、 葉ヲ除ク)	二「リットル」以下	五、〇
	五「リットル」	四、〇

璃 玻	十「リットル」	六、〇
	二十「リットル」	八、〇

○度量衡法施行規則 明治二十四年八月 農商務省令第十八號

度量衡法施行規則左ノ通定ム

度量衡法施行規則

第一章 檢定

第一條 度量衡檢定所ハ常置、特設ノ二トシ常置檢定所ニ於テハ製作、修復若ハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定シ特設檢定所ニ於テハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定ス

常置檢定所ハ地方廳所在地ニ一箇所ヲ置キ特設檢定所ハ定期檢定ヲ施行スルトキ地方長官便宜其ノ場所ヲ指定スヘシ

前項特設檢定所ノ場所及檢定ノ期日ハ其ノ檢定ヲ施行スル期日ヨリ少クモ一箇月以前ニ之ヲ告示スヘシ

第二條 度量衡器ノ檢定ヲ受ケントスルトキハ製作修復若ハ輸入シタル者ハ左ノ甲號書式ニ營業ノ目的ニ使用スル者ハ乙號書式ニ依リタル檢定請求書ニ明治二十四年勅令第七十七號第九條ニ定ムル檢定料相當ノ登記

印紙ヲ貼用シ之ヲ器物ニ添へ度量衡檢定所ニ差出スヘシ
 (甲號書式用紙美濃)

度量衡器檢定請求書

此處ニ登
 記印紙ヲ
 貼用シテ
 印スヘシ

(度器)

.....	直形	竹	全長	目盛	製作又ハ輸入番號	筒數
.....	方形	檜	何升又ハ何リットル	又何ハ	何	何
.....	形状	物質	種	類	製作又ハ輸入番號	筒數
.....

(但シ種類ノ欄中日盛ノ記入ヲ要スルハ三尺以下ノ度器ニ限ル)

(量器)

(斗概)

.....	種	類	製作又ハ輸入番號	筒數
.....	大、中又ハ小	何號又ハ	至自何何號	何
.....

(分銅)

.....	圓塔形	眞鈴	何百匁	製作又ハ輸入番號	筒數及組數
.....

(秤)

.....	秤	秤量	感量又ハ目盛	製作又ハ輸入番號	筒數
.....

年月日

何製作、修覆又ハ輸入者 宿所 何

某印

(乙) 號書式用紙

度量衡器檢定請求書

此處ニ登
記印紙ヲ
貼用シテ
印スヘシ

(度量器)

物 質	全 種		目 類	盛 類	箇 數
	長	目			
竹	直尺	何何 何メートル 何	何何 何ミリメートル 何	何	箇
	曲リ尺				箇

(但シ種類ノ欄中目盛ノ記入ヲ要スルハ三尺以下ノ度量器ニ限ル)

(量器)

物 質	種 類	箇 數
鐵	葉	何何 何「リ ット ル」 何

(分銅)

種 類	箇 數 及 組 數
何 又 ハ 何「グラム」	何 箇
自 何 又 ハ 何「グラム」	幾 組 何 箇
至 何 又 ハ 何「グラム」	

(秤)

種 類	秤 量	感量又ハ目盛	箇 數
秤	何何 何「キログラム」 何	何何 何「ミリグラム」 何	何 箇

年月日 宿 所 某④
 第三條 五分若ハ「グラム」未滿ノ分銅ノ檢定ハ常置度量衡檢定所ニ於テ
 之ヲ行フ

第四條 檢定所ニ度量衡器ヲ差出シ難キトキハ其ノ事由及度量衡器ノ種類、箇數等ヲ詳記シ特ニ其ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受ケンコトヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得

地方長官前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ請求者ハ檢定吏員ノ爲メニ成規ノ旅費日當其ノ他檢定ニ要スル費用ヲ負擔シ檢定吏員ノ指示ニ從ヒ諸般ノ準備ヲナスヘシ但シ旅費其ノ他ノ費用ハ之ヲ前納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ請求書ヲ出張吏員ニ差出スヘシ

第五條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、度器ノ目盛及分銅ノ最小定限並ニ公差ハ明治二十四年勅令百七十七號第一條、第二條、第三條及第四條其ノ構造ハ本令第二章ノ規定ニ依リ檢定スヘシ

第六條 度量衡器ヲ檢査シタルトキハ其ノ合格ノモノニハ檢定ノ證印ヲ附シ、證印ヲ附シ難キモノニハ證書ヲ附シ、證印又ハ證書アルモノニシテ不合格ノトキハ之ニ消印ヲ附スヘシ

錘及增錘ハ其ノ初回ノ檢定ノ外合格スルモ證印ヲ附セス

第七條 證印、證書、消印及年號印、廳府縣印ノ種類、雛形ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 證印 正 大 四分平方
中 二分平方
小 六厘平方

打込ミ印 烙キ印
大 四分平方
小 二分平方

一 證 書

檢定之證	製作人	年 號	番 號	品 質	形 狀	種 類	年 月
何 某	何 何	何 年	第 何 號	何 々	何 々	何 々	何 何

大 長三寸五分
横五寸

小 長一寸二分
横一寸五分

打込ミ印 烙キ印 押シ印

一 消 印



打込ミ印、烙キ印共

大 長徑四分
短徑二分六厘

中 長徑二分
短徑一分三厘

小 長徑一分三厘
短徑四厘

大 長徑四分
短徑二分六厘

小 長徑二分
短徑一分三厘

大 長徑六分
短徑四分

第八條 汚染、磨滅、毀損等ニ依リ證印證書ノ識別シ難キモノ又ハ證書ノ紛失シタルモノハ更ニ其ノ器ノ檢定ヲ受クヘシ

第二章 構造

第九條 度器ハ表面ニ其ノ全長ヲ表記スヘシ但シ細帶狀ノ度器ニシテ函ニ連結シタルモノハ其ノ函ニ表記スルモ妨ナシ

鏈狀ノ度器ハ其ノ一端ノ環ニ其ノ全長ヲ表記スヘシ

第十條 量器ハ外側ニ其ノ全量ヲ表記シ斗概ハ切口ニ其ノ種類ノ大中小ヲ表記スヘシ

第十一條 鐵葉ヲ以テ五合及一「リットル」以上ノ量器ヲ製作スルトキハ之ヲ二重ニスヘシ

第十二條 鐵、銅、眞鍮ヲ以テ製作シタルハ量器ハ其ノ内面ニ又錫ハ白銅ヲ鍍著スヘシ

第十三條 木製ノ量器ハ鐵板ヲ以テ口縁ヲ被フヘシ

一升及二「リットル」以上ノ木製ノ方形量器ニハ其ノ側及底ノ四隅ノ外面ニ鐵帶ヲ曲ケテ附加スヘシ其ノ圓形量器ニハ一箇又ハ交叉シタル二箇ノ鐵帶ヲ曲ケ其ノ側及底ノ外面ニ沿フテ附加スヘシ

酒、酢、醬油、食鹽等ノ如キ鐵ヲ腐蝕スヘキ物料ヲ量ルニ用井ル量器ニハ其ノ鐵ニ錫又ハ白銅ヲ鍍著シ若ハ腐蝕セサル他ノ堅牢ナル物質ヲ以テ前二項ノ鐵ニ代フヘシ

鐵板又ハ鐵帶ヲ量器ニ附著スルニ螺旋釘ヲ以テシタルトキハ其ノ捻戻シヲナシ得サル丈ケ釘頭ヲ削去スヘシ

斗概ハ鐵葉ヲ以テ其ノ側面ヲ包ムヘシ但シ本條第三項ノ量器ニ附屬スル斗概ハ此ノ限ニアラス

第十四條 量器ニハ注口、趾及把ヲ附スルコトヲ得

注口ヲ附スルトキハ其ノ容量ノ割合ニ應シ量器ノ深サヲ減ズヘシ

注口ノ口面ハ量器ノ上面ト其ノ高サヲ同一ニスヘシ但シ玻璃ノモノハ此ノ限ニアラス

第十五條 圓形量器ノ口徑ハ其ノ深サト同一ニスヘシ但シ金屬製一升及二「リットル」以下ノモノハ其ノ深サノ二分ノ一トスヘシ

第十六條 衡器ノ重點及支點ニハ鋼鐵若ハ堅石ヲ用井緒紐ニハ金屬、革又ハ強靱ナル絹絲、麻絲等ヲ用井ルヘシ

第十七條 錘及增錘ノ物質ハ分銅ノ物質ト同一ノモノニ限ル但シ其ノ重量五十匁又ハ二百「グラム」以上ノモノニアラサレハ鐵ヲ以テ製作スルコトヲ得ス

第十八條 分銅、錘及增錘ノ重サヲ齊整スル爲メ鉛ヲ用井ルトキハ分銅及增錘ハ上面ノ一部、錘ハ側面又ハ底面ノ一部ヲ穿チ此ニ鉛ヲ填充シ金屬片ヲ以テ之ヲ塞クヘシ但シ分銅ノ把手ヲ螺旋ニナシテ其ノ穿口ヲ塞クトキハ釘ヲ以テ之ニ緊著スヘシ

前項ノ穿口ヲ塞クニハ鐵及螺旋釘ヲ用井ルコトヲ得ス

第十九條 鐵製ノ分銅、錘及增錘ノ鉛ヲ填充セサルモノハ分銅及增錘ハ上面ノ一部、錘ハ側面ノ一部ニ眞鍮片ヲ鑲入シ檢印ヲ附スルノ便ニ供スヘシ

第二十條 分銅、錘及增錘ニ填充スル鉛ノ量ハ其ノ全量ノ二十分ノ一ニ超ユルコトヲ得ス

第二十一條 天秤、臺秤、桿秤ハ其ノ最大重ヲ掛ケタル量ヲ秤量トシテ左ノ定限以下ノ量ヲ感スルコトヲ要ス

天秤 秤量ノ千分ノ一

臺秤 秤量ノ二千分ノ一

桿秤 秤量ノ二百分ノ一

第二十二條 臺秤ハ秤量十貫若ハ三十「キログラム」以上ノモノニ限ル

第二十三條 臺秤ノ目盛ハ秤量ノ二千分ノ一以內、桿秤ノ目盛ハ秤量ノ二百分ノ一以內トス但シ其ノ感量ヨリ小ニスルコトヲ得ス

第二十四條 二段以上目盛シタル桿秤ノ感量ハ每段ニ就キ之ヲ定ムヘシ

第二十五條 桿秤ノ取緒ハ一緒若ハ二緒トス其ノ二緒ノモノハ之ヲ表裏ニ附著スヘシ

第二十六條 分銅ハ其ノ重量增錘ハ其ノ掛量ヲ其ノ上面ニ表記スヘシ但シ線狀ノ分銅ハ此ノ限ニアラス

第二十七條 錘、增錘、皿等ニシテ其ノ附屬スル秤桿ト分離シ得ルモノハ其ノ秤桿ト同一ノ符號ヲ表記スヘシ

第二十八條 天秤ハ其ノ秤量及感量ヲ支柱、臺又ハ其ノ他ノ部ニ表記スヘシ

第二十九條 臺秤ハ其ノ秤臺ノ縁ニ桿秤ハ其ノ桿ノ目盛ノ各段ニ秤量ヲ表記スヘシ

第三十條 度量衡器ニハ製作者若ハ輸入シテ販賣スル者ノ記號及製作若ハ輸入ノ年號、番號ヲ併列シテ表記スヘシ

修葺シタル度量衡器ニシテ前項ノ記號、年號又ハ番號ヲ識別シ難キモノニハ修葺者ノ記號及修葺ノ年號、番號ヲ表記スヘシ

表記ノ方法ハ左ノ例ニ依ルヘシ

明治二十六年製(輸入若ハ修葺)ノ第千八十號ハ

「記號²⁶一〇八〇」又ハ「記號²⁶一〇八〇」又ハ「記號²⁶一〇八〇」

第三十一條 數箇ノ分銅ヲ一組トナストキハ箱ニ納メ各箇ニ同一ノ記號、年號及番號ヲ附スヘシ之ヲ各箇ニ附シ難キトキハ箱ニ表記スルコトヲ得
第三十二條 度量衡器ノ自盛ハ度及衡ノ名稱ノ一倍、二倍、五倍若ハ此ノ倍數ノ十倍、百倍タルヘシ但シ斤ノ目盛ハ其ノ二分ノ一、四分ノ一又ハ一倍、二倍、五倍タルヘシ

第三章 免許

第三十三條 度量衡器ノ製作、修覆若ハ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ願書ニ明治二十四年勅令第七十七號第六條ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ輸入販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ願書ニ記スヘシ
第三十四條 農商務大臣ハ免許ヲ與ヘントスルトキハ其ノ通知書ニ免許料納入用紙ヲ添ヘ出願者ニ送付スヘシ
出願者ハ前項ノ免許料納入用紙ニ明治二十四年勅令第七十七號第八條ノ免許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ其ノ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ農商務省ニ納ムヘシ

第三十五條 免許料ノ納入ヲナシタルトキハ免許狀ヲ下付スヘシ

免許狀ヲ受領シタルトキハ免許狀ノ日附ヨリ三十日以内ニ明治二十四年勅令第七十七號第十一條ノ身元保證金ヲ納ムヘシ

免許ヲ取消サレ若ハ營業ヲ廢止シタルトキハ免許狀ヲ返納スヘシ又之ヲ紛失シタルトキハ更ニ其ノ下付ヲ請フヘシ

第三十六條 第三十四條ノ免許料及第三十五條ノ身元保證金ヲ規定ノ期限内ニ差出サ、ルトキハ其ノ出願又ハ免許ヲ無効トス

第三十七條 身元保證金ハ通貨若ハ公債證書ヲ國立銀行ニ預ケ入レ其ノ預以證券ヲ地方廳ニ納メ置クヘシ但シ公債證書ハ時價ニ依リ其ノ二割ヲ増シテ納ムヘシ

地方長官前項ノ預リ證券ヲ受取タルハ其旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第三十八條 身元保證金ノ金額ニ減少ヲ生シタルトキハ地方長官其ノ旨ヲ納入者ニ通知シ完納セシムヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ完納セザルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申シ處分ヲ請フヘシ

第三十九條 度量衡器ノ製作、修覆若ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届出ヘシ

第四十條 度量衡器ノ製作若ハ修覆ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器ヲ備フ

ヘシ但シ其ノ賣渡ヲ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得
製作ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器ヲ製作スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ
ハ地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ

製作若ハ修覆ニ用井タル原器ハ毎年一回以上地方長官ノ檢定ヲ受クベシ
第四十一條 度量衡器ノ製作、修覆若ハ輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ其
ノ表記ニ用井ル記號ヲ定メ豫メ地方長官ニ届出ヘシ

第四十二條 從來度量衡製作若ハ賣捌ノ免許ヲ受ケタル者其ノ營業ヲ繼續
セントスルトキハ明治二十五年九月三十日マテニ明治二十四年勅令第百
七十七號第六條ニ定ムル設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届
出テ繼續免許狀ヲ受クヘシ

繼續營業者ハ第三十七條ノ手續ニ依リ繼續免許狀下付ノ日ヨリ三十日以
内ニ身元保證金ヲ納ムヘシ
前二項ノ期限内ニ届出及身元保證金ノ納入ヲナサル、者ハ其ノ營業ヲ繼
續スルコトヲ得ス

第四十三條 前條届出ノ設計不適當ナルトキハ農商務大臣ハ期限ヲ定メテ
其ノ變更ヲ命スヘシ

罰則

第四十四條 第八條ニ違背シタル者ハ拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第三十五條第三項第三十九條若ハ第四十一條ニ違背シタル者
ハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第四十條ニ違背シタル者ハ五圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○度量衡檢定所、地方原器、檢定用具、檢定補助
用具及度量衡檢定成績表ニ關スル規程明治二十
四年
八月農商務省訓
令第三十五號

北海道廳 府縣

度量衡檢定所、地方原器、檢定用具、檢定補助用具及度量衡檢定成績表ニ關
スル規程左ノ通定ム

第一條 常置度量衡檢定所ハ火災ノ虞少ナク、氣温ノ外成ルヘク温度ノ劇
變ナキ乾燥靜穩ナル場所ヲ撰フヘシ

第二條 特設度量衡檢定所ハ官廳公署其ノ他便宜ノ場所ヲ以テ之ニ充ツヘ
シ

第三條 度量衡器ヲ檢定スル場所ハ敲キ土間其ノ他堅牢ニシテ平坦ナル土
間ヲ用井ルヘシ

第四條 地方原器ハ濕氣少ク温度ノ劇變、火災及塵埃ヲ避クヘキ場所ニ堅
牢ナル臺ヲ据ヘテ其ノ上ニ平置シテ保管スヘシ

第五條 地方原器ヲ使用スルトキハ成ルベク其ノ保管シアル場所ニ於テシ
且ツ直接ニ手ヲ觸レザル様注意スヘシ

第六條 地方長官ハ農商務大臣ノ指揮ニ從ヒ地方原器ノ檢定ヲ受クヘシ但
シ臨時檢定ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ具シテ農商務大臣ニ申請スヘシ

第七條 農商務大臣ハ附錄第一號ノ檢定用具ヲ地方長官ニ交付スヘシ

第八條 檢定用具ノ修補引替若クハ増加ヲ要スルトキハ地方長官其ノ事由ヲ
具シ農商務大臣ニ請求スヘシ

第九條 檢定用具ハ特設檢定所ニ於テ用井ル時ノ外常置檢定所ニ備ヘ置ク
ヘシ

第十條 地方長官ハ毎年檢定用具ニ供スル度量衡器ヲ檢定スヘシ

第十一條 地方長官ハ附錄第二號ノ檢定補助用具ヲ備フヘシ

第十二條 地方長官ハ左ノ書式ニ依リ前年四月ヨリ其ノ年三月ニ至ル一箇
年間ノ度量衡檢定成績表ヲ調製シ毎年五月十日マテニ農商務大臣ニ報告
スヘシ

(用紙美濃)

自何年何月 至何年何月 度量衡檢定報告

關 府 縣

形状	物質	種類	別	合 格		不 合 格	
				箇	數	箇	數
度量衡							
計							
檢定料計							
量器							
直尺		尺	メートル				
疊尺		尺	メートル				
卷尺		尺	メートル				
縫尺		尺	メートル				
鯨尺							
曲リ尺							

一 長サ鯨尺二尺ト六厘トシ其ノ二尺ハ鯨尺一分目ヲ附シ一端ノ度目
ノ内外鯨尺六厘ニハ鯨尺二厘目ヲ附ス

第一卷尺

一 長サ十八尺ト四分六厘トシ其ノ十八尺ハ一寸目、端一ノ六尺ハ一
分目ヲ附シ又其端ノ度目ノ内外四分六厘ニハ二厘目ヲ附ス(明治二
十五年
七月農商務省訓令第
二十三號ヲ以テ改定)

第二卷尺

一 長サ五メートルト十五「ミリメートル」トシ其ノ五「メートル」ハ五
「センチメートル」目ト一端ノ「メートル」ニ「ミリメートル」ハ其次ノ
「メートル」ハ五「ミリメートル」目ヲ附シ又其端ノ度目ノ内外十五
「ミリメートル」ニ十分ノ五「ミリメートル」目ヲ附ス(同上)

第一量器

一 自一斗至一勺

第二量器

一 自二十「リットル」至一「センチリットル」

第一分銅

一 自五貫至一毛ノ十分ノ一(同上)

第二分銅

大形天秤

一 秤量十貫、感量五分

中形天秤

一 秤量一貫、感量一厘

小形天秤

一 秤量五十匁、感量一毛ノ十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ十分ノ一

度器檢定器

量器檢定器

重サ檢定補助具

顯微鏡

水準器

證印

消印

年號印

廳府縣印

附錄第二號

檢定補助用具

- 一 秤架 支柱ヲキ天秤及桿秤ヲ懸クルニ用井ルモノ
- 一 第一秤架 第一圖ノ如シ
- 一 第二秤架 第二圖ノ如シ
- 一 第三秤架 第四圖ノ如シ
- 一 取緒鈎ミ 秤秤ノ取緒ヲ鈎ミテ之ヲ鈎ルニ用井ルモノ
- 一 第二秤架ニ附屬スルモノ 第三圖ノ如シ
- 一 第三秤架ニ附屬スルモノ 第五圖ノ如シ
- 一 秤臺 小形ノ天秤及支柱アル桿秤(書狀掛ケノ類)ヲ載スルニ用井ルモノ
- 一 鉛丸 分銅ヲ檢定シ又ハ水重ヲ以テ秤器ヲ檢定スルニ用井ルモノ
- 一 鉛板 前同様ノ場合ニ於テ適宜削リ取リ小片トナシテ用井ルモノ
- 一 精粟 秤器ノ容量ヲ檢定スルニ用井ルモノ
- 一 粟注 粟ヲ秤器ニ容ルニ用井ルモノ
- 一 水注 水重ヲ以テ秤器ヲ檢定スルトキ水ヲ秤器ニ注入スルニ用井ルモノ
- 一 吸水管 前同様ノ場合ニ於テ少量ノ水ヲ注クニ用井ルモノ
- 一 机 秤器檢定器及天尺其ノ他檢定スルモノ
- 一 打印盤 檢定ノ印ヲ附スルニ用井ルモノ

錘前同 第十一圖ノ如シ

烙印ノ柄 第十二圖ノ如シ

右ノ外檢定ノ執行ニ要スル物品(圖式畧之)

○度量衡器製作修覆原器拂下代徴収方

明治二十四年九月

農商務省訓令第四十號

北海道廳 府縣

本年當省令第十一號度量衡法施行規則第四十條ニ據ル度量衡器ノ製作修覆原器拂下代ノ徴収方ハ其廳ニ委任候條二十三年當省訓令第六號及第二十九號ニ據リ取扱フヘシ

但二十五年概算書ハ送附ニ及ハス

○度量衡檢定規程

明治二十五年七月 農商務省令第二十二號

北海道廳 府縣

度量衡檢定規程左ノ通之レヲ定ム
度量衡檢定規程

第一章 檢定スヘキ度量衡器並檢定ノ方法

第一條 檢定スヘキ度量衡器ハ明治二十四年法律第三號度量衡法、勅令第

百七十七號度量衡器ノ制限、其ノ製作、修覆及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則及農商務省第十一號度量衡法施行規則ノ規定ニ遵由シタルモノニ限ル

第二條 度量衡器ノ檢定ハ左ニ掲ル三回ノ検査ヲ經ルヲ要ス

第一 度量衡器檢定請求書ノ當否ノ検査

第二 度量衡器ノ種類、形狀、物質及構造ノ検査

第三條 度量器ノ目盛、量器ノ寸法及容量、衡器ノ感量、目盛及重量ノ検査

第三條 第一回検査ニ於テハ度量衡法第三條第四條第五條及度量衡法施行規則第二條第三條ノ規定ニ照校シテ一ノ抵觸ナキモノヲ合格トシ其ノ他ハ不合格トス

第四條 第二回検査ニ於テハ度量衡器ノ制限、其ノ製作、修覆及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則第一條及度量衡法施行規則第二章第十五條第二十一條及第二十四條ノ規定ニ照校シテ一ノ抵觸ナキモノヲ合格トシ其ノ他ハ不合格トス

第五條 第三回検査ニ於テハ度量衡器ノ制限、其ノ製作、修覆及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則第三條第四條及本規則第二章ノ規程ニ照校シテ一ノ抵觸ナキモノヲ合格トシ其ノ他ハ不合格トス

第二章 検査ノ方法

第六條 卷尺及鏈尺ヲ検査スルニハ檢定用卷尺ヲ用非其ノ他ノ度量器ヲ検査

スルニハ檢定用直尺若ハ鯨尺ヲ用ウヘシ

第七條 檢定用直尺又ハ鯨尺ヲ用非ルトキハ其ノ目盛ヲ施シタル邊ヲ検査スル者ノ方ニ向ケ箱ノ儘度量器檢定臺(第一圖)ノ後段「甲」「乙」ニ載セ臺縁ニ定シタル抑へ具「丙」「丁」「戊」ヲ以テ其ノ移動ヲ防クヘシ

第八條 度量器ノ目盛ヲ検査スルニハ其ノ檢定スヘキ各最小目盛ヲ之ニ相當スル檢定用度量器ノ目盛ニ對照スヘシ

前項ノ場合ニ於テ受檢器ノ目盛線及文字ノ記入方ニ錯誤ナク且ツ兩度量器ノ各目盛線互ニ並行シテ一致スルカ又ハ一致セサルモ其ノ差、公差以內ニ在ルモノヲ合格トスヘシ
一 器ニ二段以上ノ目ヲ盛リタルモノハ其ノ一段毎ニ目盛ヲ検査スルヲ要ス

第九條 卷尺ヲ除キ他ノ度量器ノ目盛ヲ検査スルニハ顯微鏡ヲ用非ルヲ要ス但シ其ノ構造ニ因リ顯微鏡ヲ用非難キモノハ此ノ限ニ非ス

第十條 度量器ノ構造ニ因リ其ノ目盛ヲ檢定用度量器ノ目盛ト接合セシメ難キモノハ目渡シ器(第二圖)ヲ用非テ検査スヘシ

第十一條 直尺又ハ鯨尺ノ全長及目盛ヲ検査スルニハ受檢度量器ヲ度量器檢定臺ノ前段「己」「庚」ニ載セ其ノ構造ニ因リ載セ難キモノハ前段ノ上部ヲ撤去シ之ヲ其ノ下部「辛」「壬」ニ載セ其ノ目盛ヲ檢定用度量器ノ目盛ト同シ高サニ

於テ對照セシメ本條第二項若ハ第三項ノ手續ヲ行フヘシ但シ玉尺(球圓
壻等ノ徑ヲ度ル直尺)ハ其ノ全長及目盛ヲ檢涅シタル後更ニ第十二條ノ
手續ニ依リ其ノ内直角ヲ檢査スルヲ要ス

受檢度器ノ全長檢定用度ニ均シキ種類ノモノハ兩器ノ左方目盛ノ起線ヲ
正シク合セ又受檢度器ノ全長檢定用度器ヨリ短キ種類ノモノハ受檢度器
ノ左方目盛ノ起線ヲ檢定用度器ノ右方ヨリ數ヘタル受檢度器ノ全長相當
ノ目盛線ニ正シク合セ受檢度器ノ目盛ヲ左方ヨリ右方ニ及ホシ逐次之ニ
相當スル檢定用度器ノ目盛ニ對照シ又其ノ全長ヲ右端ノ目盛線ニ對照シ
テ其ノ差ヲ視定シ之ヲ目盛及全長ノ公差ニ照校スヘシ

受檢度器ノ全長檢及用度器ヨリ短キ種類ノモノハ檢定用度器ニ相當スル
定差ヲ長サ毎ニ及其ノ殘餘ノ分部ニ就キ前項ノ手續ヲ行ヒ每次視定シタ
ルヲ差引キシタルモノヲ全長ノ差トシ之ヲ公差ニ照校スヘシ

第十二條 曲リ尺ハ前條第一項及第二項ノ手續ニ依リ兩枝ノ全長及目盛ヲ
檢査シ其ノ合格シタルモノハ更ニ其ノ内外二角ヲ檢査スヘシ但シ此ノ場
合ニ於テハ抑ヘ具ヲ用非ルヲ要セス

角ヲ檢査スルニハ平板面又ハ紙厚面ニ兩脚規ヲ以テ直角ヲ畫キ之ニ受檢
度器ノ内外二角ヲ照校シ俱ニ正シク合ヒタルモノヲ合格トスヘシ
第十三條 疊尺ハ之ヲ延長シテ第十一條ノ手續ニ依リ其ノ全長及目盛ヲ檢

査スヘシ但シ其ノ目盛ノ同一平面ニ在サルモノハ之ヲ構成スル各直尺每
ニ其ノ目盛ヲ檢査シ次項ノ手續ニ依リ其ノ全長ヲ檢査スヘシ

首位ノ直尺ハ其ノ全長ヲ檢シ次位以下ノ各直尺ハ其ノ前位ニ在ル直尺ノ
最終目盛線ト接續スヘキ目盛線ヨリ他ノ一端ノ最終目盛線マテノ寸法ヲ
檢シ其ノ各接續部ニ於テ一致スヘキ兩直尺ノ目盛線一致セサルキハ其
ノ差ヲ視定シ之ト各直尺ニ就テ視定シタル差ヲ差引キシタルモノヲ疊尺
全長ノ差トシ之ヲ公差ニ照校スヘシ

第十四條 卷尺又ハ鏈尺ノ全長及目盛ヲ檢査スルニハ檢定用度器ノ目盛ヲ
施シタル邊ヲ檢査スル者ノ方ニ向ケ拘臺抑臺(第二圖)ヲ用非テ之ヲ其ノ
間ニ渡シ張リ下部ニ木片ヲ布キ水平ヲ保タシメ鎮子ヲ其ノ臺ニ載セ更ニ
他ノ抑臺拘臺ヲ前ノ拘臺抑臺ニ並ヘ之ヲ用非テ受檢度器ヲ渡シ張リ檢定
用度器ト相接シテ並行セシメ鎮子ヲ其ノ臺ニ載セ俱ニ第十一條第二項第
三項ノ手續ニ依ルヘシ

第十五條 量器ハ量器用尺(第四圖)ヲ用非テ其ノ寸法ヲ檢査シ木材製、鐵葉
製及二升又ハ五リットル以上ノ金屬製ノモノハ善ク乾キテ粒ノ揃ヒタル
精粟ヲ其ノ他ノ量器ハ善ク漉シテ清潔ナル冷水ヲ用非テ其ノ容量ヲ檢査
スヘシ

第十六條 量器ノ寸法ヲ檢査スルニハ其ノ形狀ニ應シ左ノ手續ニ依ルヘシ

一 方形量器ハ第三量器用尺ノ「甲」ヲ逐次四隅ニ當テ各方ノ寸法ヲ視定シ其ノ差ヲ公差ニ照校スヘシ

二 圓形量器ハ第一若ハ第二量器用尺ノ「甲」又ハ「乙」ヲ逐次内面ニ箇所以上ニ當テ徑ノ寸法ヲ視定シ其ノ差ヲ公差ニ照校スヘシ

三 斗概ハ之ヲ平板上ニ轉輾シテ其ノ面ニ密著セサルモノハ不合格トシ其ノ密著スルモノハ更ニ側面及切口ヲ第三量器用尺ノ内直角ノ二邊ニ當テ「丙」及「乙」ノ目盛ニ依テ其ノ徑ト長サトヲ視定シ其ノ差ヲ公差ニ照校スヘシ

第十七條 量器檢定臺ハ粟粒ヲ以テ量器ノ容量ヲ檢定セントスルトキ土間ニ据ヘテ用井ルモノトス

檢定用斗概及漏斗ノ注口ハ受檢量器五升又ハ十リットル以上ノモノニハ其ノ大ヲ五合又ハ一リットル以上ノモノニハ其ノ中ヲ二合又ハ五「デシリットル」以下ノモノニハ其ノ小ヲ用井ルヘシ

第十八條 粟粒ヲ以テ量器ノ容量ヲ檢査スルニハ逐次左ノ四段ノ手續ヲ行フヘシ

一 受檢量器ニ相當スル檢定用量器及容量比較器(第五圖ノ甲)ヲ量器檢定臺(第五圖ノ乙)上適宜ノ位置ニ据ヘ其ノ上位ニ漏斗ヲ裝置シテ粟ヲ注クノ用ニ供スヘシ漏斗ノ高サハ斗概ヲ使用スルニ差支ナキヲ度

トシ且ツ檢定用量器ト受檢量器ノ深サ相同シキ場合ニ於テハ漏斗ノ下口ヨリ兩量器ノ内底面マテノ高サヲ同一ニシ其ノ同シカラサル場合ニ於テハ其ノ深サノ差ノ二分ノ一ヲ度トシテ檢定用量器ニ對シ其ノ高サヲ増スヲ要ス

一斗及五升、二十リットル及十リットルノ容量比較器ハ函ニ裝置シタル儘使用スヘシ

二 粟粒ヲ量器上ノ漏斗ニ盛リ其ノ下口ヲ開テ之ヲ量器ニ注入セシメ之ニ相當スル檢定用斗概(第六圖)ノ稜「甲」「乙」ヲ檢査スル者ノ方ニ向ケテ靜ニ量器ノ一隅ニ當テ「丙」ノ面ヲ下ニ向ケ少シク斜ニ極メテ輕快ニ之ヲ引キ其ノ上面ニ餘リタル粟粒ヲ拂ヒ去ルヘシ此ノ場合ニ於テ量器ノ縁ニ尙粟粒ノ殘留スルカ又ハ斗概ト量器ノ衝突若ハ其ノ他ノ原因ノ爲メニ量器ヲ震動シタルトキハ更ニ其ノ施行ヲ新ニスヘシ但シ使用ニ要スル粟粒ノ量ハ方形ノ受檢量器ニ在テハ五割増圓形ノモノニハ三割増トスヘシ

三 量器ノ粟粒ヲ容量比較器上ノ漏斗ニ盛リ移シ其ノ下口ヲ開テ之ヲ容量比較器ニ注入セシメ其ノ粟ノ上面ニ當ル目盛ヲ視定スヘシ但シ粟粒ヲ漏斗ニ移スニハ務メテ器物ノ接觸漏斗ノ震動及粟粒ノ飛散ヲ防キ又便宜粟注キヲ使用スヘシ

四 檢定用量器ヲ除キ之ニ代フルニ受檢量器ヲ以テシ更ニ前三段ノ手續ヲ施行シ其ノ前後ニ視定シタル容量比較器ノ目盛ニ依リ兩者ノ容量ノ差ヲ視定シ之ヲ其ノ公差ニ照校スヘシ

同量ノ器ヲ檢査スルトキト雖モ每器ニ付本條ノ手續ヲ行フヘシ

第十九條 水ヲ以テ量器ノ容量ヲ檢査スルトキハ二合又ハ五デシリットル以上ノモノニハ檢定用大形天秤一合又ハ二デシリットル以下ノモノニハ中形天秤ヲ用非ルヘシ但シ天秤ノ用法ハ第二十三條第三項ニ依ルヘシ量器ニ水ヲ盛ルニハ先ツ其ノ内面ヲ濕シ次ニ水ヲ注入シ充分水ヲ合ミタル小刷毛ヲ以テ其ノ内面ニ附著スル氣泡ヲ搔キ取り次ニ蓋ノ一部ヲ量器ニ載セ緊壓シ徐ニ之ヲ進メテ密閉シ若シ蓋ノ下ニ氣泡ヲ殘ストキハ更ニ少量ノ水ヲ注入シ再ヒ其ノ蓋ヲ密閉シ其ノ外面周圍ノ水濕ヲ拭ヒ去ルヲ要ス但シ玻璃製量器ニ水ヲ盛ルニハ之ヲ水平面上ニ置キ水ヲ注入シ全量ノ目盛線ニ達セシメ内面ヲ善ク拭フヘシ水面ヲ目盛線ニ達セシムルニハ視線ヲ下方ノ水際ニ注キ水面ト一致セシメ水ヲ少シツ、加減シテ視定スヘシ

第二十條 水ヲ以テ量器ノ容量ヲ檢査スルニハ逐次左ノ五段ノ手續ヲ行フヘシ

一 受檢量器及ヒ之ニ相當スル檢定用量器ヲ其ノ蓋ヲ除キ天秤ニ載セ其

ノ輕重ヲ檢スヘシ

二 檢定用量器受檢量器ヨリ重キトキハ之ヲ右皿ニ載セ輕キトキハ其ノ差ヨリ少シク重キ鉛ヲ添ヘ之ヲ載セ又他ノ鉛ヲ受ケ皿ニ盛リ之ヲ左皿ニ載セ左右平等ナラシムヘシ

三 檢定用量器ニ水ヲ盛リ之ニ公差相當ノ分銅ヲ加ヘ又他ノ鉛ヲ他ノ受檢皿ニ盛リ之ヲ左皿ニ載セ左右平等ナラシムヘシ

四 右皿ノ檢定用量器、分銅、鉛及左皿ニ後ニ載セタル鉛ヲ其ノ受ケ皿ト共ニ撤去シ更ニ右受皿ニ檢定器ヲ載セ之ニ鉛ヲ加ヘ左右平等ナラシムヘシ

五 受檢量器ニ水ヲ盛リ前ニ左皿ヨリ撤去シタル鉛及其ノ受ケ皿ヲ再ヒ左皿ニ載スヘシ此ノ場合ニ於テ左右平等ナルカ又ハ右皿偏輕ヲ表スルモ之ニ其ノ公差二倍ニ相當スル分銅ヲ加ヘ平等若ハ偏重ヲ表スルトキハ之ヲ合格トスヘシ

第二十一條 同量ノ受檢量器二箇以上ヲ引續キ檢査スル場合ニ於テハ其ノ輕重ヲ秤リ最モ重キモノニ就テ前條各段ノ手續ヲ行ヒ其ノ他ハ同條第四段及第五段ノ手續ノミヲ行フヘシ

第二十二條 玻璃製量器ヲ檢査スルニハ之ニ相當スル檢定用量器ヲ其ノ蓋ト共ニ天秤ノ右皿ニ載セ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ第二十條第三段以

下ノ手續ニ依ルヘシ

第二十三條 衡器ハ其ノ重量、目盛及感量ヲ検査ス

受檢分銅ノ種類一貫又ハ二「キログラム」以上ノモノニハ檢定用大形天秤ヲ、五十又ハ百「グラム」以上ノモノニハ中形天秤ヲ、二十又ハ五十「グラム」以下ノモノニハ小形天秤ヲ用ウヘシ

檢定用大形天秤ハ第一秤架ニ懸ケ中形及小形天秤ハ机上ニ載セ其ノ臺ヲ水平ナラシメ俱ニ土間ニ据ヘテ用ウヘシ

第二十四條 分銅ヲ検査スルニハ其ノ公差ニ相當スル分銅ヲ檢定用分銅ニ添ヘ天秤ノ右皿ニ又鉛ヲ左皿ニ載セ之ヲ平等ナラシメ次ニ右皿ノ分銅ヲ悉皆撤去シ之ニ受檢分銅ヲ載スヘシ此ノ場合ニ於テ左右平等ナルカ又ハ右皿偏輕ヲ表スルモ之ニ其ノ公差相當ノ分銅ヲ加ヘ平等若ハ偏重ヲ表スルトキハ之ヲ合格トスヘシ

數筒ノ分銅ヲ合セテ一組トナシタルモノハ其ノ中ノ一筒不合格ナルトキハ其ノ組全體ヲ不合格トスヘシ

第二十五條 天秤ヲ検査スルニハ逐次左ノ三段ノ手續ヲ行フヘシ

一 天秤ノ臺ナキモノハ秤架ニ懸クヘシ其ノ臺アルモノハ土間ニ据ヘタル机又ハ秤臺ニ載セ其ノ机又ハ秤臺ニ載セ難キモノハ直ニ土間ニ据ヘテ共ニ水平ナラシムヘシ

二 水平ヲ得タルモノニ微振ヲ與ヘ其ノ指針正當ノ標點ヲ指スカ又ハ指

ササルモ調子玉ヲ以テ之ヲ正スコトヲ得ルトキハ之ヲ合格トスヘシ又鈞、皿等ノ桿ト分離シ得ルモノニシテ之ヲ懸クル桿ノ左右ニ符合ナキモノハ其ノ分離シ得ヘキ部分ヲ逐次交換シ其ノ都度平等ヲ得ルモノヲ合格トスヘシ

三 秤量ニ相當スル檢定用分銅ヲ右皿ニ又鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ更ニ其ノ分銅及鉛ヲ左右交換シテ其ノ平等ヲ得タルモノ及平等ヲ得サルモ其ノ傾斜度表ノ半度目ヲ超ヘサルモノニハ更ニ其感量相當ノ分銅ヲ一方ノ皿ニ載セ度表ノ設ケナキモノニ在テハ其ノ感動ヲ目撃シ得ルモノ又度表ノ設ケアルモノニ在テハ一度目以上ノ感動ヲ起スモノヲ合格トスヘシ

第二十六條 臺秤及臺アル桿秤ヲ検査スルニハ臺秤ハ臺脚ヲ平坦ナル位地

ニ密著セシメテ据ヘ桿秤ハ水平ナル秤臺ニ載セ逐次左ノ三段ノ手續ヲ行フヘシ

一 錘ヲ直點ニ懸ケ桿ヲ桿息メノ中間ニ靜メ之ニ微振ヲ與ヘ其ノ振動上下一様ナルトキ又ハ一様ナラサルカ若ハ桿息メニ密著スルモ調子玉ヲ以テ之ヲ正スコトヲ得ルモノヲ合格トスヘシ

二 錘ヲ適宜五筒所以上ノ目盛ニ懸ケ尙其ノ中二三筒所ニ於テハ隣接ノ

目盛ニ懸ケ其ノ各目盛ニ相當スル分銅ヲ臺又ハ皿ニ載セ終リニ錘ヲ盛リ止メニ懸ケ之ニ相當スル分銅ヲ逐次臺又ハ皿ノ四隅ニ移シ載セ其ノ都度平等ヲ得ルカ若ハ平等ヲ得サルモ公差相當ノ分銅ヲ増減シテ平等ヲ得ルモノヲ合格トスヘシ但シ皿ヲ垂下シタル桿秤ニ在テハ盛止メノ検査ニ於テ分銅ヲ皿ノ中央ニ載セ唯一回ノ平等ヲ得ルヲ以テ足レリトス

三 増錘ナキ桿秤ハ錘ヲ盛リ止メニ懸ケ平等ヲ得タルトキ最小目盛相當ノ分銅ヲ皿ニ加ヘ感動ヲ起スモノヲ合格トスヘシ又増錘アル桿秤若ハ臺秤ハ其ノ増錘ヲ小量ノモノヨリ暫次大量ノモノニ及ホシ各別ニ桿端ニ懸ケ又之ヲ悉皆同時ニ桿端ニ且ツ錘ヲ盛リ止メニ懸ケ毎次之ニ相當スル分銅ヲ臺又ハ皿ニ載セ平等セサルモノハ直ニ不合格トシ平等ヲ得タルモノハ尙其ノ最小目盛相當ノ分銅ヲ臺又ハ皿ニ加ヘ其ノ感動ヲ起スモノヲ合格トスヘシ但シ秤量百五十貫又ハ百五十「キログラム」ヲ超ルモノハ増錘ヲ悉皆同時ニ懸クルノ手數ヲ省キ單ニ其ノ量ニ相當スル重量ヲ懸ケテ平等ヲ得タルトキ其ノ感動ヲ檢スヘシ

第二十七條 臺ナキ桿秤ヲ検査スルニハ其ノ器ノ大小ニ應シ第二秤架若ハ第三秤架ニ装置シ錘ヲ逐次直點及盛リ出シニ懸ケ桿ノ水平ヲ得サルモノ

若ハ腕ミノ一致セサルモノハ直ニ不合格トシ其ノ他ハ各段ノ目盛ニ就キ更ニ前條第二段以下ヲ適用スヘシ

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ検査ヲ行フニ當リ目盛線及文字ノ記入方ニ錯誤アルモノハ不合格トスヘシ

第三章 證印、證書、消印、年號及廳府縣印ノ用法

第二十九條 證印、年號印及廳府縣印ハ受檢器ノ同一局部ニ一行又ハ二行ニ並ヘテ之ヲ同時ニ附スヘシ其ノ例ハ左ノ如シ

例 明治二十六年東京府檢定ハ「二十六東正」又ハ「東正」

第三十條 證印、年號印及廳府縣印ヲ附スルニハ受檢器ノ種類、形狀、物質並之ヲ附スヘキ局部ノ廣狹ニ應シテ其ノ大小ヲ擇ヒ消印ノ大小ハ已ニ附シアル證印ニ準スヘシ

第三十一條 打込ミ印ハ金屬製ノ度量衡器又ハ木製ノ度量器、衡器ニ用ウヘシ
烙キ印ハ象牙若ハ骨製ノ度量器、衡器、竹製ノ度量器及木製ノ量器ニ用ウヘシ
押シ印ハ度量衡器ニ附シアル證書ニ用井ルヘシ

第三十二條 度量衡器ノ證印、消印、年號印及廳府縣印ヲ附スヘキ局部ハ左ノ如シ

- 一 度器
 - 一 直尺、鯨尺、曲リ尺及疊尺ハ全長又ハ記號ヲ表記セル部
 - 二 卷尺ハ其ノ一端但シ函ニ連結シアルモノハ其ノ函
 - 三 鏈尺ハ其ノ一端ノ環
- 二 量器
 - 一 秤ハ全量又ハ記號ヲ表記セル部及把手若ハ注口ヲ附シアルモノハ其ノ把手若ハ注口ノ一部但シ第二回以後ノ檢定ニ於テハ把手及注口ニ附印スルヲ要セス
 - 二 斗概ハ其ノ一端
- 三 衡器
 - 一 分銅ハ其ノ上面
 - 二 天秤ハ桿ノ中央部
 - 三 臺錘ハ桿ノ末端
 - 錘ハ其ノ側面又ハ底面、増錘ハ其ノ上面但シ第二回以後ノ檢定ニ於テハ附印スルヲ要セス
 - 四 金屬製桿秤ハ直點ノ傍若ハ桿ノ末端又木製ノモノハ其ノ木材ノ部及端ニ金具ヲ附シアルモノハ其ノ金具但シ第二回以後ノ檢定ニ於テハ木材ノ部若ハ端ノ金具錘及増錘ハ臺秤ノモノニ同シ

五 皿アル衡器ニシテ桿ニ附印シ難キモノハ其ノ皿

第三十三條 證書ハ適宜其ノ大小ヲ擇ヒ左ノ三項ノ一ニ該當スル度量衡器ニ附スルモノトス

- 一 小形又ハ硬質ノ爲メ附印シ難キモノ
- 二 附印スルトキハ毀損若ハ差狂ヲ生スルノ虞アルモノ
- 三 附印スヘキ局部ヲ有セサルモノ

第四章 檢定用ニ供スル度量衡器ノ檢定方法

第三十四條 檢定用ニ供スル度量衡器ノ檢定ハ之ヲ地方原器ニ照校シテ其ノ固有ノ差ヲ檢査スルモノトシ其ノ手續ハ本章及第二章ノ規定ニ據ルヘシ

此ノ檢査ニ於テ固有ノ差ヲ超ユルモノ及分銅ノ檢査ニ於テ平等ヲ得サルモノハ檢定ニ使用スルヲ得ス

第三十五條 度器ハ左ノ手續ニ據ル

- 一 直尺ハ度器檢定臺ニ地方原器ト對接シテ之ヲ載セ第一直尺ハ每一尺ノ長サヲ第二直尺ハ全長ヲ各其ノ左方ヨリ右方ニ及ホシテ之ヲ檢シ地方原器ノ右端ニ盛リタル目盛ニ照校シテ其ノ差ヲ視定スヘシ
- 二 鯨尺ハ度器檢定臺ニ第一直尺ト對接シテ之ヲ載セ鯨尺ノ左方目盛ノ起線ヲ第一直尺ノ右方ヨリ數ヘタル鯨尺ニ尺ニ相當スル目盛ニ正シ

ク合セ第一直尺ノ右方ニ盛リタル目盛ニ照校シテ其ノ差ヲ視定シ更ニ地方原器ニ對スル差ヲ算定スヘシ地方原器ニ對スル差ヲ算定スルニハ第一直尺ノ右方二尺ヲ地方原器ニ比シタル差ニ其ノ左方一尺ノ差ノ二分一ヲ加ヘタルモノト第一直尺ニ對スル鯨尺ノ差トヲ差引スヘシ

三 卷尺ハ度器檢定臺ニ直尺ト對接シテ之ヲ載セ卷尺ノ目盛ノ起線ヲ直尺ノ左方目盛ノ起線ニ正シク合セ其ノ直尺ニ對スル差ヲ視定シ更ニ同様ノ手續ニ據リ直尺ニ相當スル卷尺ノ長サト直尺ノ差ヲ視定シ其ノ差ヲ差引シテ卷尺全長ノ差ヲ求メ更ニ地方原器ニ對スル差ヲ算定スヘシ

第三十六條 量器ハ左ノ手續ニ據ル

- 一 量器用尺ハ鯨尺ヲ檢査スルノ手續ニ依リ次ニ掲クル寸法ヲ直尺ニ比シ其ノ差ト直尺ノ地方原器ニ對スル差トヲ差引シテ之ヲ其ノ固有ノ差ニ照校スヘシ
- 第一及第二量器用尺 「甲」及「乙」ノ外側間ノ距離 一尺五寸
- 第三量器用尺 「甲」ノ外側ト「乙」ノ内側ノ間ノ距離 一尺五寸
- 二 容量ハ總テ水重ヲ以テ檢査シ次表ニ掲クル重量ニ比シ其ノ差ヲ各器固有ノ差ニ照校スヘシ

五合又ハ一「リットル」以上ノ量器ニハ大形天秤ヲ二合五勺又ハ五「デシリットル」以下ノモノニハ中形天秤ヲ用井ルヲ要ス

容	量	水	重	容	量	水	重
一	斗	四八一〇、四二七	二十「リットル」	：	二〇、〇〇	「キログラム」	
五	升	二四〇五、二二三	十「リットル」		一〇、〇〇		
二	升	九六二、〇八五	五「リットル」		五、〇〇		
一	升	四八一、〇四三	二「リットル」		二、〇〇		
五	合	二四〇、五二一	一「リットル」		一、〇〇		
二	合	一二〇、二六一	五「デシリットル」		〇、五〇		
二	合	九六、二〇九	二「デシリットル」		〇、二〇		
一	合	四八、一〇四	一「デシリットル」		〇、一〇		
五	勺	二四、〇五二	五「センチリットル」		〇、〇五		
二	勺	九、六二一	二「センチリットル」		〇、〇二		

一 勻 四、八一〇「センチリットル」 〇、〇一

第三十七條 天秤ハ單ニ第二章ノ規定ニ據リ分銅ハ二貫以上又ハ五キログラムノモノニハ大形天秤ヲ百匁又ハ二百グラム以上ノモノニハ中形天秤ヲ五十匁又ハ百グラム以下ノモノニハ小形天秤ヲ用井左ノ三項ノ手續ニ據ル

- 一 五毛又ハ五「ミリグラム」以下毎組ノ分銅
 - 一毛十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ分銅一箇ヲ天秤ノ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ更ニ同量ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ毎次其ノ平等ヲ檢スヘシ
 - 一毛十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ分銅二箇ヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ一毛十分ノ二又ハ二「ミリグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ
 - 一毛十分ノ二又ハ二「ミリグラム」ノ分銅二箇ト一毛十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ分銅一箇トヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ一毛十分ノ五又ハ五「ミリグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ
 - 一毛十分ノ五ノ分銅一箇十分ノ二ノ分銅二箇及十分ノ一ノ分銅一箇

ヲ合セテ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ一毛ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ

二毛以上ノ分銅ハ前諸項ノ例ニ準スヘシ

二 一厘又ハ一「センチグラム」以上毎組ノ分銅

一厘又ハ一「センチグラム」ノ分銅一箇ヲ天秤ノ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ更ニ他ノ鉛ヲ以テ左皿ノ鉛ニ載セ換ヘ平等ナラシメ之ニ撤去シタル鉛ヲ添載シテ二厘又ハ二「センチグラム」ノ各分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ

二厘又ハ二「センチグラム」ノ分銅一箇及一厘又ハ一「センチグラム」ノ分銅一箇ヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ五厘又ハ五「センチグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ

五厘又ハ五「センチグラム」以下ノ分銅ヲ合セテ一分又ハ一「デシグラム」ノ重サニ相當セシメ之ヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ更ニ一分又ハ一「デシグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ

二分又ハ二「デシグラム」以上ノ分銅ノ検査ヲ一分又ハ一「デシグラム」ノ分銅ノ検査ノ例ニ準スヘシ

最後ニ檢シタル一貫又ハ一「キログラム」分銅ノ固有ノ差相當ノ分銅

ヲ地方原器ニ添へ之ト其ノ一貫又ハ一「キログラム」分銅ノ平等ヲ檢スヘシ

三 二貫又ハ二「キログラム」以上ノ分銅

分銅固有ノ差ニ相當スル分銅ト地方原器ト右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ右皿ヨリ其ノ固有ノ差相當ノ分銅ノミヲ左皿ヨリ其ノ鉛ヲ撤去シ更ニ他ノ鉛ヲ左皿ニ載セ換へ之ヲ平等ナラシメ又左皿ニ撤去シタル鉛ヲ添載シテ二貫又ハ二「キログラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ原器ニ載セ換へ其ノ平等ヲ檢スヘシ

五貫又ハ五「キログラム」ノ分銅ニ在テハ四回、十「キログラム」分銅ニ在テハ九回、二十「キログラム」分銅ニ在テハ十九回、鉛ヲ載セ換へ前項ノ手續ヲ行フヘシ

第五章 製作、修覆原器ノ検査

第三十八條 製作、修覆原器ノ検査ハ檢定用度量衡器ト同一ノ手續ニ依ルヘシ但シ検査ノ成績ハ検査ヲ受ケタル者ノ請求ニ依リ之ヲ書面ニ認メ交付スヘシ(圖式畧之)

第二十三類 外交

○外交

○日本帝國領事規則改正 明治二十五年五月 勅令第四十五號

日本帝國領事規則
ハ法令類編第三卷
第二十三類第十二
ニ載ス

朕日本帝國領事規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本帝國領事規則第二十九條ヲ左ノ通改正ス

第二十九條 領事ハ豫メ外務大臣ノ承諾ヲ得タル場合ノ外本邦他官廳ト直

接通信スルコトヲ得ス

外務大臣ノ承諾ヲ得直接通信ヲ爲シタルトキハ次便ヲ以テ其寫書ヲ外務大臣ニ送達スヘシ

○各官廳ニテ公務上在外公使領事へ通信手續

明治二十五年五月
月閣令第四號

各官廳ニ於テ公務上在外公使領事ヲ煩ハサルヲ得サルコトアル時ハ事ノ大小ヲ論セス總テ之ヲ外務大臣ヘ照會又ハ稟請スヘシ

但豫メ外務大臣ノ承諾ヲ經テ直接通信ヲ爲スハ此限ニアラス

○旅券竝ニ手数料納付方 明治二十五年五月
外務省令第一號

内國ニ於テ徵收スル旅券並検査證手数料ハ明治二十五年七月一日ヨリ登記
印紙ヲ以テ納付スヘシ

第二十四類 會計

○會計

○物品出納規程中改正明治二十四年八月内
務省訓令第二十號

警視廳 府 縣 集治監 假留監
大阪衛生試驗所 横濱衛生試驗所

物品出納規程ハ法
令類編第三卷第二
十四類大丁ニ載ス

明治二十二年九月當省訓令第三十六號物品出納規程第二條第四條左ノ通改正
ス

第二條 本規程ニ部局長ト稱スルハ土木局長庶務局長警視總監府縣知事集
治監假留監典獄ヲ云フ

第四條 本省ニ於テハ土木局計算課長及庶務局用度課長集治監假留監ハ會
計課長警視廳ニ於テハ第三部長若クハ第三課長府縣ニ於テハ第四課長ヲ
以物品會計官吏トス但各廳ノ便宜ニ依リテハ内務大臣ノ認可ヲ經テ各次
席者ヲ以テ物品會計官吏トナスコトヲ得

○明治二十五年六月内務省訓令第十一號

警視廳 府縣
集治監 假留監
大阪衛生試驗所

横濱衛生試験所
臨時横濱築港局

明治二十二年當省訓令第三十六號物品出納規程第二條中典獄ノ下へ「臨時
横濱築港局長」ノ八字ヲ挿入ス

○懲罰及沒收金主管變換ニ附キ引繼整理方
明治
四年八月大藏省
訓令第六十六號

北海道廳 府縣
收入官吏

司法省主管懲罰及沒收金ノ儀本年當省訓令第六十三號ヲ以テ當省主管ニ變
換候ニ付テハ八月三十一日迄ニ調定濟ノモノニシテ同日迄ニ收入濟トナラ
サル(本年當省訓令第二十八號ニ依リ整理スルモノヲ除ク)調定濟額ハ司法省主管ヨリ當省主管ニ引繼クヘ
シ但八月三十一日以前收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シ未タ金庫ニ拂込ヲ了セ
サル分ハ尙ホ司法省主管トシテ整理スヘシ

○各年度歳入調定濟額ニシテ收入整理未了ノ
者取扱方
明治二十四年八月大
藏省訓令第六十八號

收入官吏 金庫出納役

各年度歳入調定濟額ニシテ翌年度八月三十一日マテニ收入整理ヲ了セサル
モノ取扱方左ノ通り心得ヘシ

第一 甲年度ニ調定シタル歳入金ニシテ乙年度八月三十一日迄ニ收入ヲ了
セサルモノハ(二十四年三月大藏省訓令第二十八號ノ手續ヲ爲シタルモノヲ除ク)之レヲ甲年度ノ收入未済トシテ
其金額ヲ乙年度ノ調定濟額ニ繰越スヘシ

第二 甲年度ト記載シタル納額告知書ヲ以テ乙年度九月一日以後現金ヲ金
庫ニ納入スルモノアルトキハ金庫ハ之レヲ乙年度歳入トシテ受領シ其納
額告知書及ヒ之レニ接續セル領收證及ヒ別符ニ乙年度ノ押印ヲ爲スヘ
シ

第三 收入官吏ニ於テ乙年度九月一日以後甲年度納額告知書(乙年度九月一日
ハ納入シ)ノ別符ヲ切離シタルトキハ之レヲ乙年度所屬トシテ取扱フヘシ

第四 收入官吏第一項ノ繰越ヲ爲シタルトキハ左ノ書式ニヨリ各年度歳入
調定濟額收入未済翌年度繰越額計算表ヲ製シ之レヲ歳入ノ事務管理廳へ
差出スヘシ

第五 收入官吏ニ於テ前項ノ計算書ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付スルトキハ
同時ニ甲年度所屬收入簿ノ締切ヲナシ而シテ乙年度收入簿當該科目調定
濟額ノ欄へ前年度ヨリ繰越トシテ其員額ヲ記載スヘシ
但シ收入官吏ニ於テ甲年度所屬ノ歳入金ヲ乙年度八月三十一日以前ニ

明治二十三年勅令
第三十四號八法令
類編第三卷第二十
四類二百一丁ニ載
ス

ル物品ノ數量價格ヲ記シタル報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ農
商務大臣ニ差出スヘシ

○鎮守府造船材料資金會計規則中改正
明治二十四年九月
勅令第百九十五號

朕鎮守府造船材料資金會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十三年勅令第三十四號鎮守府造船材料資金會計規則中左ノ通改正ス
第五條 貯蓄材料ノ原價ハ購入代價ヲ以テ計算スヘシ但造船法ノ改良市價
ノ低落又ハ毀損等ニ依リ其實價減少シタルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市
價ニ依リ其價格ヲ定ムヘシ
第六條 貯蓄材料ヲ工場ニ使用スルトキハ原價ニ損減歩合ヲ加ヘテ之ヲ賣
拂フヘシ
第七條 貯蓄材料ノ損減歩合ハ前年度及前前年度ノ損減高ヲ參酌シテ之ヲ
定ム

○郵便爲替貯金出納官吏身元保證金取扱規程
中訂正
明治二十四年九月
遞信省令第十三號

明治二十三年遞信
省令第十八號八法
令類編第四卷第二
十類十六丁ニ載ス

明治二十三年八月遞信省令第十八號郵便爲替貯金出納官吏身元保證金取扱
規則中左ノ通訂正ス
第三條中「郵便爲替貯金局長同分局長」トアルヲ「郵便爲替貯金管理所長同
支所長」ト訂正ス

○出納官吏身元保證金取扱規則中改正
明治二十四年九月
大藏省訓令
第七十三號

出納官吏

明治二十三年大藏
省訓令第三十六號
八法令類編第三卷
第十一丁ニ載ス

明治二十三年三月當省訓令第三十六號書式中第五號書式乙左ノ通改正ス
第五號書式乙

身元保證金假納付濟證		花紋
制印	第 [何] 號	者付納
	[官] 氏 名	
一金 [何] 圓 也		身元保證金 [何] 圓ノ内

第二十四類 會計

七

但 金庫取扱預金局 第 號

保管證書

右ハ「何」ヤ」ヲ取扱フ爲メ身元保證金之内第「何」同分納ノ證トシテ
之ヲ付與ス

年 月 日

大藏大臣氏名印

大藏省主管局長氏名印

登記了了ス

○農商務省所管歳入ニ係ル計算表差出方 明治二
十四年

八月農商務省訓
令第三十六號

北海道廳 府縣 大林區署

當省所管歳入ニシテ本年大藏省訓令第六十八號ニ據リ收入官吏ヨリ調定濟
額收入未濟翌年度繰越額計算表差出シタルハ本年一月當省訓令第二號歳
入總計算書(未收入額ノ内不納賦課及翌年度繰越)ニ添付シ翌年度九月二十日迄ニ當
省へ差出スヘシ

○電信柱敷地手當金過渡誤拂ニ係ル返納金収
入整理未了ノ分計算表調製差出方 明治二十四
年九月遞信
省訓令
第九號

北海道廳 府縣

電信柱敷地手當金過渡又ハ誤拂ニ對スル返納金ノ各年度歳入調定濟額ニシ
テ翌年度八月三十一日マテニ収入整理了セサルモノアルハ明治二十四
年大藏省訓令第六十八號ニ由リ調定濟額收入未濟翌年度繰越計算表調製
九月七日マテニ遞信大臣へ差出スヘシ

○仕拂命令官ノ變更令達ノ件 明治二十四年十月大
藏省訓令第七十六號

會計主務官

自今仕拂命令官ノ變更アルトキハ其時々令達スヘキニ付右ニ照シテ調定ス
ヘシ

但本文令達ハ便宜所在金庫ヲシテ傳達セシム

○道廳府縣取扱ニ係ル各省主管諸收入ノ主管
竝ニ其收納整理準據方 明治二十四年十月
大藏省訓令第七十七號

北海道廳 府縣

從來各省主管トシテ其廳府縣ニ於テ取扱フ所ノ諸收入ハ本年十二月一日ヨ
リ都テ大藏省主管トシテ明治二十二年當省訓令第六十六號ニ據リ收納整理
スヘシ

供託物取扱順序ハ
法令類編第四卷第
二十一類二十一丁
ニ載ス

但主管廳變換ニ付テハ十一月三十日迄ニ調定済ノモノニシテ同日迄ニ收
入済トナラサル(本年當省訓令第二十八號ニ依リ整理スルモノヲ除ク)調定済額ハ各省主管ヨリ大藏省主
管ヘ引繼クヘシ十一月三十日以前收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シ未タ金庫
ニ拂込ヲ了セサル分ハ尙各省主管トシテ整理スヘシ

○供託物取扱順序中刪除明治二十四年十月
大藏省訓令第七十八號

金庫出納役

昨二十三年當省訓令第一百五十五號供託物取扱順序第一條中存置ノ下十字ヲ
刪除ス

○中央備荒儲蓄金ニテ購入セル公債證書賣却

ノ件明治二十四年十一月
勅令第二百十二號

朕中央備荒儲蓄金ヲ以テ購入シタル公債證書ヲ賣却スルニ當リ隨意契約ニ
依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
中央備荒儲蓄金ヲ以テ購入シタル公債證書ヲ賣却スルニ當リ臨時急施ヲ要
スルトキハ競争ニ附セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

○明治二十三年度已降内務省所管經費決算報

告書及豫算現額計算書差出方明治二十四年
十一月内務省
訓令第二
十四號

廳 府縣 集治監
假留監 衛生試驗所

明治二十三年度已降當省所管經費決算報告書及豫算現額計算書別冊様式ニ
依リ翌年度九月二十日限り其廳ヲ發シ當省ヘ差出スヘシ
但シ明治二十三年度ニ限り十一月十五日マテ發送期限ヲ延期ス別冊ハ別
ニ頒ツ(別冊略ス)

○明治二十三年訓令甲第十號廢止明治二十四年十
一月陸軍省訓令
甲第七號

北海道廳 府縣

明治二十三年五當省訓令甲第十號來ル十二月一日以降廢止ス
但本年十一月三十日以前當省所管トシテ收納ノ分ハ従前ノ手續ニ依リ取
扱フヘシ

○陸軍省所轄物件ノ貸下賣却等北海道府縣ヘ

委任竝ニ其徵收金額收納及通報方
明治二十四
年十一月陸
軍省訓令
甲第八號

北海道廳 府縣

當省所轄ニ屬スル物件ノ貸下又ハ賣却等ニシテ道廳府縣ノ取扱ヲ要スルモノハ屯田兵司令部近衛師團監督部ヨリ其取扱ヲ道廳府縣ヘ委任スルコトアルヘシ

前項ニ依リ徵收セシ金額ハ本年大藏省訓令第七十七號ニ依リ同省主管ノ歳入トシテ收納シ尙ホ其納期及金額ヲ委任シタル當該廳ヘ通報スヘシ

○租稅其他缺損額臺帳備置整理竝前年度未現
在額及増減金額事由等取調差出方
明治二十四
年十一月大
藏省訓令第
七十九號

北海道廳 府縣

租稅其他ノ缺損額臺帳ヲ備ヘ盜難等ニ因リ缺損ヲ生シタルトキハ該金額及事由ヲ之ニ記載シ置キ其整理ヲ爲スヘシ

但毎年度ノ始メニ於テ前年末ノ現在額及其一週年度中増減セシ金額事

由等ヲ右臺帳ニ據リ取調ヘ適宜製表ノ上四月三十日限り報告スヘシ

○北海道廳府縣取扱ニ係ル歳入金毎年度概算
書及月額金庫區分表差出方
明治二十四年十一月
農商務省訓令第四十
號四

北海道廳 府縣

從來其廳府縣ニ委任セシ當省所管ノ歳入金ハ二十四年大藏省訓令第七十七號ニ據リ同省ノ主管ニ屬シタルモ該歳入金毎年度概算書及月額金庫區分表ハ従前ノ通り當省ヘ差出スヘシ

○北海道廳府縣ノ取扱ニ係ル各省收入主管變
換ニ附キ其調定額明細書收入計算書調製方
明治二十四年十一月
會計檢査院達第六號

北海道廳及府縣取扱ニ係ル司法省主管收入ハ本年九月ヨリ其他各省主管收入ハ本年十二月ヨリ大藏省主管ニ變換セシ處右諸收入ニ對スル調定額明細書及收入計算書ハ此際區分調製ヲ要セス追テ一併ニ調製シ調定額明細書ニハ各目調定濟額合計收入計算書ニハ收入濟額總計ノ備考ニ於テ各其主管省

ノ金額ヲ區分スヘシ

但司法省主管收入ニシテ既ニ提出濟ノ明細書計算書ハ其儘領置スヘシ

○明治二十二年省令第十一號中改正明治二十四年十二月大

藏省令第
二十六號

明治二十二年大藏省令第十一號書式中左ノ通改正追加シ報告書ハ明治二十五年一月分ヨリ帳簿ハ明治二十五年年度分ヨリ施行ス(書式畧之)

○物品會計官吏保管品ノ亡失毀損ニ關シ事實

審明セル片處分方明治二十四年十二月
農商務省訓令第四十五號

大林區署

物品會計官吏ノ保管ニ屬スル物品林産物
品トモノ亡失毀損ニ關シ物品會計規程ニ從ヒ事實ヲ審明シタルトキハ左ノ各項ニ依リ處分スヘシ

一 故意怠惰ニ由リ亡失又ハ毀損シタルモノト認ムルトキハ其顛末及處分意見ヲ具シ當該責任者ノ證明書寫ヲ添ヘ農商務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

二 亡失ノ原由故意怠惰ニアラスト認ムルトキハ大林區署長限リ處分シ

其顛末ヲ具申スヘシ

三 毀損ノ原由故意怠惰ニアラスト認ムルトキ又ハ使用ノ結果ニ依リ自然ニ毀損シタルモノナルトキハ大林區署長限リ處分スヘシ

四 毀損ノ物品ニシテ修繕ヲ加フルモ使用ニ堪ヘサルモノナルトキハ速ニ賣却處分ヲ爲スヘシ但賣却ヲ爲スモ價格ヲ有セサルモノハ棄却處分ヲ爲スコトヲ得

○明治二十三年訓令第十號第一項中追加明治二十五年

一月內務省
訓令第一號

廳府縣 集治監 假留監

明治二十三年當省訓令第十號第一項但書中島司ノ下ヘ「北海道集治監北海道廳監獄署ハ典獄北海道集治監分監ハ分監長札幌農學校ハ學校長北海道廳郡區役所郡區長」ノ四十九字ヲ挿入ス

○明治二十五年六月內務省訓令第十二號

廳府縣 集治監 假留監
臨時橫濱築港局

明治二十三年當省訓令第十號第一項中監獄ノ下ヘ「臨時橫濱築港局局長」ハノ十字ヲ挿入ス

明治二十三年內務
省訓令第十號ハ法
令類編第三卷第二
十四類二百二十九
丁ニ載ス

○金庫出納證明規程金庫出納事務規程中改正

加除 明治二十五年一月 大藏省訓令第一號

會計主務官 金庫出納役

金庫出納證明規程
ハ法令類第三卷
第二十四類二十三
丁ニ金庫出納事務
規程ハ同二十四丁
ニ載ス

明治二十二年大藏省訓令第七十一號金庫出納證明規程第三條第二項ヲ左ノ
通改メ第三項ヲ削ル

國庫中各部ノ移替ニ係ル出納(月計照表ナキモノ)ニハ大藏大臣ノ令達書

明治二十二年大藏省訓令第七十二號金庫出納事務規程第七十四條第八十八
條中領收證書ノ下第四百四條第七條中月計對照表ノ下及書式第三十六號括
弧中領收證書ノ下ニ大藏大臣令達書ノ七字ヲ加フ

○明治二十五年二月大藏省訓令第九號

金庫出納役

明治二十二年大藏省訓令第七十二號金庫出納事務規程中左ノ通改正刪除ス
第七十條第二項中還付ヲ請フヘシトアルヲ其月十五日迄ニ大藏省ヘ差出
スヘシト改ム

第七十二條第七十四條及第七十六條第二項中還付ヲ請フヘシトアルヲ「還
付ヲ請ヒ該表ハ其月十五日迄ニ大藏省ヘ差出スヘシト改ム

第八十四條第二項中還付ヲ請フヘシトアルヲ其月十五日迄ニ中央金庫ヘ

差出スヘシト改ム

第八十六條第八十八條及第九十條第二項中還付ヲ請フヘシトアルヲ「還付
ヲ請ヒ該表ハ其月十五日迄ニ中央金庫ヘ差出スヘシト改ム

第六十八條第八十二條中第三第五第七第九ノ各項第七十一條第七十三條第
七十五條第七十七條第八十五條第八十七條第八十九條第九十一條及書式第
三十三號第三十五號第三十七號第三十九號第四十四號第四十五號第四十六
號第四十七號ヲ刪除ス

○明治二十五年四月大藏省訓令第十九號

北海道廳 府縣

金庫出納役

明治二十二年大藏省訓令第七十二號金庫出納事務規程中左ノ通加除改正ス
第七十六條第一項中及第二十五條返納告知書ノ十一字及第二項中「及返納
告知書」ノ六字ヲ削ル

第九十條第一項中「及第二十五條ノ返納告知書」ノ十二字及第二項中「及返納
告知書」ノ六字ヲ削ル

第三號書式

一歳入金合計書備考ヘ左ノ一項ヲ加フ

國庫納金引去高ニアツテハ納入告知書ナキヲ以テ以上證書何枚トアル左

方へ但國庫納金引去高何程ニ對シ證書ナシト記入スルモノトス
第五十七號書式

- 一出納内譯書歲出内譯ノ部備考欄内ノ墨書例言ヲ削ル
- 一出納内譯書附録トシテ左ノ書式ノ定額戻入内譯書ヲ加フ
(書式略之)

○明治二十五年四月大藏省訓令第二十四號

北海道廳府縣 金庫出納役

明治二十二年大藏省訓令第七十二號附屬書式中第三十八號書式甲號第五十七號書式内譯雜部保證金ノ部ヲ左ノ如ク改正ス(書式略之)

○明治二十五年五月大藏省訓令第七十二號

北海道廳 府縣
金庫出納役

明治二十二年十二月大藏省訓令第七十二號附屬書式第五十七號中歲出ノ部備考ニ左ノ一項ヲ追加ス
定額戻入ノ數多カラサル支金庫ニアツテハ定額戻入内譯ヲ本書式備考欄内ニ便宜記載シ出納内譯書附録トシテ別冊ニ調製セサルモ妨ケナシ

○各省主管ヨリ大藏省主管ニ移轉セル北海道

廳府縣諸收入ニ係ル歲入概算書進達方
一月大藏省 訓令第二號

北海道廳 府縣

明治二十四年十月當省訓令第七十七號ニ據リ各省主管ヨリ當省主管ニ移轉セル諸收入ニ係ル歲入概算書ハ明治二十六年年度以降モ從來ノ通各主管省へ進達スヘシ
但内務省ニ係ル分ハ當省へ進達スヘシ(明治二十五年五月大藏省訓令第二十六號ヲ以テ追加)

○府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則ノ收入金主管及取扱方
明治二十五年一月 大藏省訓令第三號

北海道廳 府縣

明治二十五年一月十一日勅令第五號府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則第一條二項及第三條(明治二十五年五月大藏省訓令第三十三號ヲ以テ改)ノ收入金ハ大藏省主管トシテ左ノ通取扱フヘシ
明治二十二年十一月大藏省訓令第六十六號諸收入收納順序ニ據リ整理スヘシ

但第三條ノ府縣郡市町村ヨリ國庫ニ納ムヘキ分ハ納入告知書ヲ發シ金庫ヘ拂込マシムヘシ

二十六年年度豫算ノ儀ハ二十五年年度科目表中歳入經常部雜收入ノ款官吏遺族扶助法納金ノ次位ニ學校長正教員退隱及遺族扶助料法納金ノ一項府縣立師範學校並公立中學校長正教員退隱及遺族扶助料法納金ノ一目ヲ新設シ調製スヘシ

○林産物品取扱區分方 明治廿五年一月 農商務省訓令第一號

大林区署

林産物品取扱區分方自今左ノ通り心得ヘシ

- 一 官行事業又ハ官民分收ノ契約ニ依リ收得シタル物品ハ總テ林産物品會計規程ニ據リ取扱フヘシ
- 二 前項ノ外盜伐木末木落枝落葉ノ類ニシテ官之ヲ採集セス該物件所在地ニ於テ直チニ賣却スルモノハ林産物品會計規程ニ據リ取扱フヲ要セス但賣却ノ目的ヲ以テ特ニ之ヲ採集シ貯藏場ニ藏置シタルトキハ該規程ニ據リ取扱フヘシ
- 三 立木竹小柴下草其他ノ産物ニシテ土地ニ付著ノ儘賣却スルモノハ總テ林産物品會計規程ニ據リ取扱フヲ要セス

○官立學校及圖書館會計金庫出納事務規程中

改正 明治二十五年二月 大藏省訓令第四號

金庫出納役

明治二十三年大藏省訓令第六十九號官立學校及圖書館會計金庫出納事務規程中左ノ通り改正ス

第十條中甲乙トアル乙以下三十二字ヲ「官立學校及圖書館歳入」ノ十字ニ改ム

第十七條中甲乙ニ準シトアル五字ヲ「乙丙」ノ三字ニ改ム

第二十四條中甲乙トアル二字ヲ「乙丙」ノ二字ニ改ム

第四號書式左ノ通改ム (書式畧之)

○歳入豫定計算書及日月額金庫區分表調製進

達方 明治二十五年二月 大藏省訓令第十號

北海道廳 府縣 各稅關

明治二十六年年度以降其應取扱ニ係ル租稅及租稅外諸收入ヲ區分シ從來差出タル歳入概算書歳入概算月額金庫區分表ノ様式ニ準シ別ニ定ムル處ノ期限並調製順序ニ從ヒ歳入豫定計算書及歳入豫定計算月額金庫區分表ヲ調製進達スヘシ

明治二十三年大藏省令第六十九號ハ法令類編第三卷第一丁ニ載ス

明治二十三年大藏省訓令第三十一號
ハ法令類編第三卷
第二十四類二百二十六丁ニ載ス

明治二十三年訓令第三十一號中加除
大藏省訓令第六號
明治二十五年二月

府縣

明治二十三年三月當省訓令第三十一號當省所管內國稅徵收費仕拂豫算整理手續第三項第四項及第六項ヲ刪除シ更ニ第三項ニ左ノ通追加シ第五項ヲ第四項トス

第三項

一 仕拂命令官ハ一周年度仕拂命令濟額及殘高報告書ヲ調製シ翌年度七月十五日以内ニ其廳ヲ發シ當省ニ送付スヘシ
但本項報告書ハ明治二十四年四月當省訓令第三十七號様式ニ準據シ「殘高」ノ次ニ「事由」ノ一欄ヲ設ケ毎目殘高ニ對スル事由ヲ詳細掲記スヘシ

○內國稅徵收費ノ實蹟及各稅別費用取調報告

明治二十五年二月
大藏省訓令第七號

明治二十四年度以降左ノ各項ニ據リ內國稅徵收費ノ實蹟及各稅別費用ヲ取

調ヘ主稅局ヘ報告スヘシ

- 一 府縣知事ハ年度經過後每會計年度ニ屬スル一歲所要ノ費額ヲ直間稅分署ニ區分シタル報告書ヲ調製シ其年四月三十日限主稅局ヘ送付スヘシ
但鳥廳ニ屬スルモノハ別冊ニ調製スヘシ
- 一 府縣知事ハ年度經過後每會計年度ニ屬スル一歲所要ノ費額ヲ各稅ニ分配シタル報告書ヲ調製シ其年五月三十一日限主稅局ヘ送付スヘシ
- 一 臨時歲出ニ係ルモノハ款別ニ調製シ第一項ノ日限ト同時ニ主稅局ヘ送付スヘシ
- 一 前各項ノ書式ハ每年度主稅局ヨリ送付スヘシ

○現金ヲ委託セル出納官吏ノ交替通知方
明治二十五年

三月大藏省訓令第十四號

出納官吏

明治二十二年大藏省令第十三號第一章ニ依リ現金ヲ金庫ニ委託シタル出納官吏ニシテ交替ヲ爲シタル場合ハ金庫ニ於テ月計對照表差出方ノ都合有之ニ付其者速ニ當該金庫ヘ通知スヘシ

○各地金庫取扱ニ係ル供託有價證券現在高表

調製差出方 明治二十五年三月
大藏省訓令第十七號

金庫出納役

明治二十三年大藏
省訓令第百二十七
號ハ法令類編第四
卷第二十四類十六
丁ニ載ス

各地金庫取扱ニ係ル供託有價証券年度未現在高ニ對シ左ノ雛形ノ如ク現在高
表調製各支金庫分ハ本金庫ニ取纏メ毎年四月二十日限發送中央金庫ヲ經テ
預金局へ差出スヘシ (書式略ス)

○大阪本金庫各本金庫間振換金取扱順序中増

補改正 明治二十五年四月
大藏省訓令第二十號

金庫出納役

明治二十三年大藏省訓令第百二十七號大阪本金庫各本金庫間振換金取扱順
序中左ノ通増補改正ス

第十條中其内譯ノ部トアル下へ「題號ヲ振換金受入トナシ其他」ノ十三字
ヲ加フ

第十一條左ノ通改ム

各地本金庫ニ於テハ毎月出納内譯書拂ノ部へ「振換金拂出」ノ科目ヲ置
キ (摘要ハ單ニ拂出ト書載スヘシ) 中央金庫振換金ト併合シテ記載シ其内譯ノ部題號ヲ振
換金拂出トナシ大阪本金庫振換證書ヲ區分記載スルモノトス

○金庫相互間回送金振換金取扱順序第一條ノ
令達書中送付期日アルモノノ送金方 明治二十五
年四月大藏

省訓令第
二十一號

金庫出納役

二十三年二月當省訓令第十五號金庫相互間回送金振換金取扱順序第一條ノ
令達書中特ニ送付期日ヲ指示シタルモノハ其期日以内ニ於テ數回ニ分チ送
金スルコトヲ得ヘキ儀ト心得ヘシ

○會計主務官金庫所在地外ノ各債主ニ送金手

續 明治二十五年四月
大藏省訓令第二十三號

會計主務官 金庫出納役

會計主務官ニ於テ金庫所在地外ニアル各債主ニ送金ヲ要スル裏書アル集合
仕拂命令 (金庫所在地ニアルモノハ該) ヲ受ケタルトキハ該命令附屬ノ金額氏名表
中記載ノ送金先場所ヲ調査シ該命令及金額氏名表ヲ金庫ニ送付シ規定ノ領
收證書用紙ヲ債主ニ送達スヘシ
金庫ニ於テ前項送金ヲ要スル集合仕拂命令及金額氏名表ヲ受ケタルトキハ
金庫出納事務規程第十五條ニ依リ送金ノ手續ヲナスヘシ

○繰越ニ係ル歳入調金濟額收入未了ノモノ整

理方 明治二十五年四月 大藏省訓令第二十五號

收入官吏 金庫出納役

明治二十四年大藏省訓令第六十八號第一項ニ依リ乙年度ノ調定濟額ニ繰越シタル歳入金ニシテ乙年度三月三十一日迄ニ收入ヲ了セサルモノハ之ヲ丙年度ニ繰越シ丙年度中猶收入ヲ了セサルモノハ之ヲ丁年度ヨリ以下順次ニ繰越スヘシ

收入官吏ニ於テ前項繰越ヲナシタルトキハ同訓令第四項ニ準シ計算表ヲ製シ歳入事務管理廳ニ差出スト同時ニ前年度所屬收入簿當該科目摘要欄内へ翌年度繰越トシ其員額ヲ調定濟額ノ欄へ朱記スヘシ

乙年度三月分收入報告書ニ於テハ調定濟額本月分欄内へ丙年度へ繰越スヘキ員額ヲ朱書シ備考欄内へ其事由ヲ詳記スヘシ

但本年三月分收入報告書調製濟ノモノハ四月分報告書ニ於テ本項ノ通調製スヘシ

同訓令第二項甲年度ト記載セル納額告知書ニ依リ乙年度經過後金庫又ハ收入官吏ニ於テ現金ヲ收入シタルトキハ其收入シタル日ノ屬スル年度ノ歳入トシ金庫ハ納額告知書領收證書及別符ニ相當年度ノ押印ヲナスヘシ

前項ニ依リ金庫へ現金ヲ納付スルモ收入官吏へ領收證書ノ檢印ヲ請ハサルモノアルトキハ二十四年大藏省訓令第二十八度ニ準據シ整理スヘシ
同訓令第六項監守證ニ對シ乙年度經過後現金取付ヲナシタルトキハ其取付ヲナシタル日ノ屬スル年度ノ歳入ニ組込ミ該六項ニ規定スル手續ヲ以テ整理スヘシ

○取引所仲買人免許料外三種目歳入豫定計算

書等差出方 明治二十五年四月 農商務省訓令第九號

北海道廳 府縣

明治二十六年度以降其廳取扱ニ係ル大藏省主管歳入ノ内左ノ各目ハ別ニ定ムル所ノ調製順序ニ據リ歳入豫定計算書及歳入豫定計算月額金庫區分表ヲ調製シ前年度四月二十日迄ニ當省へ差出スヘシ
但從來差出シタル左ノ各目ハ歳入概算書及歳入概算月額金庫區分表ハ自今送付ニ及ハス

- 取引所仲買人免許料
- 米商會所仲買人認許料
- 株式取引所仲買人認許料
- 度量衡原器拂下代

○遞信費ニ係ル計算ノ檢查責任解除委託ノ現
 金前渡ヲ受ケタル官吏ヨリ提出スル仕拂計
 算書差出方 明治二十五年四月
 遞信省訓令第一號

北海道廳 府縣

明治二十五年年度以降當省所管ノ歲出中遞信費ニ係ル計算ノ檢查及責任解除
 ヲ會計検査院ヨリ當廳ヘ委託セラレタルニ付現金前渡ヲ受ケタル官吏ヨリ
 提出スル仕拂計算書ハ客年六月當省訓令第四號ニ據リ當省ヘ差出スヘシ

○明治二十四年訓令第五號廢止 明治二十五年五月
 內務省訓令第七號

廳府縣 集 治 監
 假留監 衛生試驗所

明治二十四年四月當省訓令第五號ハ二十四年度已降廢止ス

○仕拂命令官歲出科目誤謬訂正手續 明治二十五
 年五月內務
 省訓令
 第九號

廳府縣 集 治 監

假留監 衛生試驗所

本年五月十九日大藏省訓令第三十一號ヲ以テ歲出科目誤謬訂正順序會計主
 務官ヘ訓令相成ヌルニ付テハ仕拂命令官ニ於テ科目誤謬ノ訂正ヲ要スルト
 キハ該書式ニ據リ其時々會計主務官ヘ科目訂正書ヲ交付スヘシ

○出納官吏交替ノキ事務引繼手續書式中改正
明治二十五年五月
 大藏省訓令第二十八號

出納官吏

明治二十三年當省訓令第五十四號第二號書式左ノ通り改正ス(書式略之)

○出納官吏檢査規程 明治二十五年五月
 大藏省訓令第三十號

出納官吏

出納官吏檢査規程左ノ通り相定候條爲心得此旨訓令ス

出納官吏檢査規程
 第一條 大藏大臣ハ其指揮監督ノ下ニアル出納官吏ノ金櫃帳簿及事務取扱
 方ノ實況ヲ檢査スルヲ必要ト認ムルトキハ檢査員ヲ特派シテ之ヲ施行ス
 第二條 檢査員ハ臨檢章ヲ携帯シ之ヲ出納官吏ニ示シタル後檢査ニ著手シ
 其旨當該廳長ニ通告スヘシ

第三條 検査員ハ出納官吏ヨリ出納計算書ヲ差出サシメ帳簿及保管ノ現在

金ニ照合スヘシ

第四條 検査員ハ出納官吏ノ帳簿並ニ收支ノ手續等例規ニ反スルコトガキ

ヤ否ヲ稽查スヘシ

第五條 検査員出納官吏ノ金櫃帳簿等検査ニ關シ必要ト認ムルトキハ當該

廳ニ向ヒ其關係書類ノ送付ヲ求ムルコトアルヘシ

第六條 検査員出納官吏ノ保管スル現金ノ検査ヲ了シタルトキハ檢定書ニ

通ヲ調製シ該官吏ヲシテ之ニ署名捺印セシメ其一通ヲ本人ニ交付スヘシ

第七條 検査員出納官吏ノ帳簿ノ検査ヲ了シタルトキハ帳簿表紙ノ裏面ニ

何年何月何日マテハ出納ハ検査済ナルコトヲ記載シ更ニ記名調印ヲ爲ス

ヘシ

○歲出科目中誤謬訂正順序 明治廿五年五月
大藏省訓令第卅一號

會計主務官 金庫出納役

自今歲出科目ニ誤謬アリタルトキハ左ノ順序ニ據ルヘシ

第一條 會計主務官ニ於テ仕拂命令ヲ受取人ニ交付シタル後科目ニ誤謬ア

ルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ仕拂命令官ニ申立ツヘシ 會計検査院ノ審理
書ニヨリ科目ノ誤
謬ヲ發見シタル
トキ亦同シ

第二條 會計主務官ニ於テ翌年度八月三十一日以前ニ仕拂命令官ヨリ科目

訂正書ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 其月以内ニ科目訂正書ヲ受ケタルトキハ直チニ支出簿ニ訂正ノ記帳

ヲ爲スヘシ

二 其月ノ計算締切以後科目訂正書ヲ受ケタルトキハ直チニ支出簿ニ訂

正ノ記帳ヲ爲シタル上其訂正ヲ爲シタル月ノ支出報告書ニ之ヲ掲記

シ事由欄内ニ其事由ヲ詳記スヘシ

但仕拂内譯書提出後ナルトキハ 會計検査院ノ審理書ニヨリ訂正
シタルトキハ此限リニアラス 後月ノ仕拂

内譯書 其事由ヲ備考
欄内ニ詳記シニ於テ訂正スヘキ旨ヲ會計検査院ニ申立ツヘシ

第三條 會計主務官ニ於テ翌年度九月一日以後仕拂命令官ヨリ科目訂正書

ヲ受ケタルトキハ之ヲ支出簿ニ記載セス別ニ補助簿ヲ設ケ之ヲ記入シ支

出報告書ニ準シ支出訂正報告書ヲ調製シ其事由ヲ事由欄内ニ詳記シ支出

報告書送付ノ順序ニ依リ其時々之ヲ大藏省ニ提出スヘシ

第四條 會計主務官ニ於テ此順序ニヨリ科目ノ訂正ヲ爲シタルトキハ該訂

正書ヘ式ノ如ク割印及證印ヲナシ甲號ト乙號トヲ切離シ其乙號ヲ當該金

庫ニ送付スヘシ

第五條 金庫ニ於テ前條ノ科目訂正書ノ乙號ヲ受ケタルトキハ順次之ヲ綴

束保存スヘシ

用紙西ノ内四ツ切

(内並三印章ハ孰モ朱)

甲第何號

歳出科目訂正書

一金 何圓

何年度經常(臨時)歳出 何廳所管

何々(款) 何々(項)

「此訂正科目」

「何々(款)」 「何々(項)」

右何年何月何日何地金庫へ宛發シタル第何號仕拂命令何ノ誰渡ノ分科
目朱書ノ通訂正ヲ要ス

何年何月何日

何廳仕拂命令官官氏名

印

何廳會計主務官何某宛

「會計主務官ノ印」

割

印

乙第何號

歳出科目訂正書

一金 何圓

何年度經常(臨時)歳出 何廳所管

何々(款) 何々(項)

「此訂正科目」

「何々(款)」 「何々(項)」

右何年何月何日何地金庫へ宛發シタル第何號仕拂命令何ノ誰渡ノ分科
目朱書ノ通訂正ヲ要ス

何年何月何日

何廳仕拂命令官官氏名

印

何廳會計主務官何某宛

何年何月何日

何廳會計主務官何某宛

印

○大藏省所管出納官吏身元保證金額指定標準

明治二十五年五月
大藏省訓第三十四號

北海道廳 府縣

當省所管出納官吏身元保證金額指定標準左ノ通改定ス

現金ノ領收ヲ常職トスル官吏(國稅及稅外收入官吏)

取 扱 額

保 證 金 額

五百圓以上貳千圓未滿

四拾圓

貳千圓以上四千圓未滿

五拾圓

四千圓以上六千圓未滿

六拾圓

六千圓以上八千圓未滿 七拾圓
 八千圓以上壹萬圓未滿 八拾圓
 壹萬圓以上拾萬圓未滿ハ壹萬圓毎ニ拾萬圓以上ハ貳萬圓毎ニ拾五圓ヲ加ヘ最高額千圓ニ止ム

物品會計官吏内國稅徵收費所屬物品及保管物會計官吏

保 管 額 保 證 金 額

千圓以上四千圓未滿 貳拾圓
 四千圓以上六千圓未滿 三拾圓
 六千圓以上八千圓未滿 四拾圓
 八千圓以上壹萬圓未滿 五拾圓
 壹萬圓以上拾萬圓未滿ハ五千圓毎ニ拾萬圓以上ハ壹萬圓毎ニ五圓ヲ加ヘ最高額千圓ニ止ム

印紙類會計官吏

保 管 額 保 證 金 額

千圓以上四千圓未滿 貳拾五圓
 四千圓以上六千圓未滿 三拾五圓
 六千圓以上八千圓未滿 四拾五圓
 八千圓以上壹萬圓未滿 六拾圓

壹萬圓以上拾萬圓未滿ハ壹萬圓毎ニ拾萬圓以上貳萬圓毎ニ拾五圓ヲ加ヘ最高額千圓ニ止ム

○金櫃帳簿等検査ノ件 明治二十五年五月 大藏省訓令第三十五號

出納官吏

本年當省訓令第三十號ニヨリ出納官吏ノ金櫃帳簿等検査トシテ検査員臨檢ノトキ休暇日又ハ退廳後ニ際スルモ検査員ノ通知ニヨリ出納官吏ハ何時ヲリトモ其検査ニ應スル儀ト心得ヘシ

○森林收入延納貸金整理順序及報告書式中改

正削除 明治二十五年五月 農商務省訓令第十九號

府縣沖繩縣 大林區署

明治二十二年一月農商務省訓令第六號森林收入延納貸金整理順序及報告書式中左ノ通り更正削除ス

順序第六條中「及十一月三十日」ノ七字ヲ削除ス
 順序第七條中「延納貸金ノ異動ハ左ノ兩期ニ分チ」ノ十五字ヲ「前年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年間ニ於ル」ノ二十六字ニ改メ同條第一項第二項ヲ削除ス

書式第一號ノ一及書式第二號ノ一中「二十三年度二十四年度」ノ二欄及書式第一號ノ二中「二十四年度」ノ一欄ヲ削除シ該欄記載ノ金員ヲ以下年度統括ノ部ニ記載スルノ式ニ改ム

書式第二號ノ一中記載例身代限ノ部第二項事由中「二十三年度ヨリ」トアルヲ「以下年度統括ヨリ」ニ改ム

書式第一號ノ二及書式第二號ノ一中表紙及末文記載例中「二十二年十一月三十日」トアルヲ「二十三年三月三十一日」ニ改ム

書式第二號ノ二ヲ削除ス

○鑛山監督署經費取扱順序 明治二十五年五月 農商務省訓令第十六號

鑛山監督署

鑛山監督署經費取扱順序左ノ通相定ム

- 第一條 鑛山監督署經費豫算定額及ヒ仕拂豫算ハ毎年度農商務大臣之ヲ令達スヘシ
- 第二條 仕拂命令官ハ官吏出張先ニ於テ使用スル測量人夫賃及運搬費ニ就キ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得
- 第三條 鑛山監督署長ハ仕拂豫算各項中目ノ金額彼是流用ヲ要スルトキハ

- 其有餘不足ニ就キ各事由ヲ詳悉シタル計算書ヲ製シ其時々農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ
- 前項ノ流用ヲ請フハ毎年一月限リトス但精算上又ハ著シキ事故アルトキハ此限リニアラス
- 第四條 仕拂命令官ハ會計法第二十三條但書ノ場合ニ於ケル返納金アルトキハ明治二十二年大藏省令第十六號第一條ニ依リ返納告知書ヲ發スヘシ但翌年度五月三十一日迄ニ返納セサルモノアルトキハ同省令第四條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五條 仕拂命令官ハ明治二十二年大藏省令第十六號第二條ニ依リ領收證ノ檢印及別符ノ切離ヲ爲シタルトキハ毎二箇月分取纏メ翌月五日限定額戻入要求書ヲ製シ農商務大臣ニ差出スヘシ但必要アル場合ハ本條ノ期限ニ拘ハラズ定額戻入ヲ要求スルコトヲ得
- 第六條 仕拂命令官ハ過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ要スルトキハ其時々過年度支出計算書ヲ製シ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第七條 仕拂命令官ハ會計法第二十一條第二十二條ニ據リ定額ヲ翌年度ニ繰越シ使用セントスルトキハ年度經過後十日以内ニ繰越計算書ヲ製シ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第八條 會計主務官ハ會計規則第四十九條ニ據リ調製スル所ノ支出報告書

ニ歳出金月計對照表ヲ添へ翌月十日限り農商務省中央會計主務官ニ送付スヘシ

第九條 會計主務官ハ支出證明規程ニ依リ調製スル所ノ證明書類ヲ左ノ期限内ニ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

一 支出計算書ハ翌年度八月三十一日

但交替シタルトキハ交替後六十日

一 支拂内譯書ハ翌月十日

第十條 鑛山監督署長ハ前條計算書及ヒ内譯書ノ送付ヲ受ケタルトキハ支出證明規程第二十七條第三項ノ保證書ヲ添へ受領ノ日ヨリ五日以内ニ其地ヲ發シテ下検査官吏ニ差出スヘシ

第十一條 仕拂命令官及ヒ出納官吏ニ對スル會計検査院ノ審理書下検査官吏ノ推問書及ヒ之ニ對スル報告書又ハ答辯書ハ總テ鑛山監督署長ヲ經由スヘシ

第十二條 第二條ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ毎月仕拂計算書ヲ翌月五日限り鑛山監督署仕拂命令官ニ差出スヘシ

但仕拂事件ノ終リタルトキハ其仕拂ノ終リタル日ヨリ五日以内ニ差出スヘシ

第十三條 仕拂命令官ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シテ下検査書ヲ添へ支出

證明規程第二十六條第二項ノ期限内ニ之ヲ會計検査院へ送付スヘシ
第十四條 仕拂命令官ハ定額經費ノ決算報告書ヲ製シ翌年度八月三十一日限り農商務大臣ニ差出スヘシ

第十五條 仕拂命令官ハ各項目節ニ區分シタル經費豫算整理簿ヲ備へ仕拂豫算額仕拂命令濟額仕拂豫算殘額ヲ登記スヘシ

第十六條 會計主務官ハ支出簿ノ外左ノ帳簿ヲ設クヘシ
一 經費支出金目別簿

此帳簿ニハ各項中各目ヲ區分シ經費ノ支出
現金前渡及ヒ概算渡ノ金額ニシテ精算未済ノモノヲ除ク
ヲ登記スルモノトス

二 概算渡支出金整理簿
此帳簿ニハ概算渡ノ支出ヲ登記シ其精算未精算ヲ調査スルノ用ニ供スルモノトス

三 現金前渡支出整理簿
此帳簿ニハ現金前渡ノ支出ヲ登記シ其精算未精算ヲ調査スルノ用ニ供スルモノトス

四 各地送遣金整理簿
此帳簿ニハ各地へノ送金ヲ登記シ領收證ノ到達未到達ヲ調査スルノ用ニ供スルモノトス

第十七條 流用計算書、定額戻入要求書、過年度支出計算書、經費繰越計算書、決算報告書、經費豫算整理簿、支出金目別簿、概算渡支出金整理簿、現金前渡支出金整理簿及ヒ各地送還金整理簿ハ第一號ヨリ第十號ニ至ル様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ（書式畧之）

○鑛山監督署物品出納規程 明治二十五年五月 農商務省訓令第十七號

鑛山監督署

鑛山監督物品出納規程左ノ通相定ム

鑛山監督署物品出納規程

- 第一條 鑛山監督署所用物品出納ノ命令ハ鑛山監督署長之ヲ執行スヘシ
- 第二條 物品會計規則第十一條ノ検査官吏及ヒ第十五條第二項但書ノ官吏ハ鑛山監督署長之ヲ命スルコトヲ得
- 第三條 物品會計官吏購入其他ノ事由ニヨリ物品ヲ接受シタルトキハ證憑書類ニ照シ調査納入スヘシ
- 第四條 物品ノ交付ヲ受ケントスル者ハ物品會計官吏ニ請求書ヲ差出スヘシ
- 第五條 物品ヲ交付スルトキハ共用ニ係ルモノハ共用品取扱主任各自ノ使用ニ係ルモノハ各自ノ領收證ヲ徴スヘシ

第六條 物品ヲ返納セントスルトキハ共事由ヲ詳記セル返納書ヲ添へ物品會計官吏へ納付スヘシ

第七條 物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

- 一 備品出納簿
- 二 消耗品出納簿
- 三 供用品書留簿

第八條 貯藏ノ物品ハ物品會計官吏共用ニ係ル物品ハ共用品取扱主任各自使用ノ物品ハ各自之ヲ保管スヘシ

第九條 物品會計官吏ハ共用又ハ各自保管ノ物品ト雖モ取締上ニ關シテ總テ監督ノ任アルモノトス

第十條 貯藏ノ物品ハ適宜帳簿ヲ設ケ品種數量ヲ明瞭ニ登記シ倉庫ニ格護スヘシ

第十一條 本規程第八條ノ保管ノ責アル官吏其物品ヲ故意若クハ懈怠ニ由リ物品ヲ亡失毀損シタルモノハ相當ノ代價ヲ辨償スヘシ

第十二條 物品會計規則第十五條第一項ノ計算書ハ會計検査院ニ於テ定メタル程式ニ由リ年度後四箇月以内ニ調製シ證憑書類ヲ添へ之ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

但物品會計規則第十五條第二項ノ計算書ハ交替シタル日ヨリ六十日以

内ニ差出スヘシ

第十三條 鑛山監督署長ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ年度後五箇月以内ニ會計検査院ニ送付スヘシ

但前條但書ノ計算書ハ受領ノ日ヨリ一箇月以内ニ送付スヘシ

第十四條 不用ニ屬スル物品及ヒ毀損シテ修補ヲ加ヘ難キ物品ハ物品會計官吏鑛山監督署長ノ指揮ヲ受ケテ之ヲ處分スヘシ

第十五條 第七條ノ備品出納簿、消耗品出納簿及ヒ供用品書留簿ハ第一號ヨリ第三號ニ至ル様式ニ依リテ之ヲ調製ス可シ (書式畧之)

○鑛山監督署諸收入収納取扱順序 明治二十五年五月農商務省訓令

第十
八號

鑛山監督署諸收入収納取扱順序左ノ通相定ム

鑛山監督署諸收入収納取扱順序

第一條 收入像算額ハ毎年度農商務大臣之ヲ令達スヘシ

第二條 鑛山監督署長ハ諸收入ヲ調定シ各納人ニ對シ本訓令附屬書式ノ納入告知書ヲ發シ現金ヲ金庫ニ納付セシムヘシ

但現金ヲ收入官吏ニ即納セシムル場合ニハ納入告知書ヲ發セサルモ妨ナシ

納入告知書ハ收入官吏ニ送付シ收入官吏ヲシテ納人ニ交付セシムヘシ

第三條 收入官吏納入告知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ明治二十二年大藏省令第十一號第十四號書式ノ收入簿調定濟ノ欄ニ其金額ヲ登記シ納入告知書ハ直ニ納人ニ送付スヘシ但第二條第一項但書ノ場合ニ於テハ其領收スヘキ金額ノ確定シタルトキ收入簿調定濟ノ欄ニ其金額ヲ登記スヘシ

第四條 納入告知書ハ指定期限内ニ納人ヲシテ納金ト共ニ金庫ニ持參セシムヘシ

第五條 前條納金ニ對スル別符付領收證ハ直ニ納人ヲシテ收入官吏ニ持參セシメ收入官吏ハ明治二十二年大藏省令第十一號第十四號書式ノ收入簿收入濟ノ欄ニ其金額ヲ登記シ會計規則第二十九條ノ手續ヲナスヘシ

第六條 收入官吏現金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年大藏省令第十一號第十四號書式ノ收入簿收入濟ノ欄ニ其金額ヲ登記シ同省令第三號書式ノ現金拂込書ヲ製シ明治二十二年大藏省令第十三條第十五條ニ定メタル期限ニ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

第七條 收入官吏前條拂込金ニ對シ金庫ヨリ領收證ヲ得タルトキハ翌日マテニ之ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第八條 鑛山監督署長前條ノ領收證ヲ受取タルトキハ現金收入檢定簿ニ其金額ヲ登記シ領收證ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ收入官吏ニ返付スヘシ

第九條 收入官吏ハ明治二十二年大藏省令第十一條第四號書式ノ收入報告書ニ收入金月計對照表ヲ添ヘ翌月七日迄ニ之ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第十條 鑛山監督署長ハ前條ノ收入報告書ニ依リ明治二十二年大藏省令第十一條第五號書式ニ準シ收入集計報告書ヲ製シ左ノ書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 收入報告書

二 收入金月計對照表

三 收入金拂込未濟内譯報告書

第十一條 收入官吏ハ稅外諸收入證明規程ニ依リ證明スル所ノ計算書類ヲ左ノ期限内ニ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

一 收入計算書ハ翌年度十月三十一日

但交替シタルトキハ交替後六十日

二 現金出納計算書ハ翌年度五月三十一日

第十二條 鑛山監督署長前條計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ稅外諸收入證明規程第十一條第二項ノ保證書ヲ添ヘ受領ノ日ヨリ五日已内ニ其地ヲ發シ下検査官吏ニ差出スヘシ

第十三條 收入官吏ニ對スル會計検査院ノ審理書下検査官吏ノ推問書及ヒ之ニ對スル報告書又ハ答辯書ハ總テ鑛山監督署長ヲ經由スヘシ

第十四條 鑛山監督署長ハ翌年度九月三十日迄ニ歳入總計算書ヲ製シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十五條 鑛山監督署長ハ收入金ノ過誤納ヲ發見シ其下戻ヲ要スルトキハ歳入金下戻計算書ヲ製シ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十六條 鑛山監督署長ハ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

一 收入調定簿

二 現金收入檢定簿

三 納入告知書割印簿

第十七條 歳入總計算書、歳入金下戻計算書、收入調定簿、現金收入檢定簿及ヒ納入告知書割印簿ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ (書式略之)

○諸拂戻及缺損補換金ノ仕拂命令濟額報告書

差出方 明治廿五年五月
大藏省訓令第三十六號

税 關

北海道廳 府縣

諸拂戻及缺損補填金ノ仕拂命令濟額報告書ハ本年度以降ハ年二期（四月ヨリ十月七日以内十月ヨリ翌年三月迄ハ四月七日以内）ニ其應ヲ發シ差出スヘシ
但翌年度四月以降ニ係ル分ハ完結ノ上七日以内ニ差出スヘシ

○内國稅徵收費所屬物品出納規程 明治廿五年六月大藏省訓令

第三十七號

府 縣

明治二十二年九月當省訓令第六十號内國稅徵收費所屬物品會計規程左ノ通リ改定來ル七月一日ヨリ施行ス

内國稅徵收費所屬物品出納規程

- 第一條 内國稅徵收費所屬ノ物品ハ總テ此規程ニ從フ
- 第二條 物品出納ノ命令ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受タル官吏之ヲ行フヘシ
- 第三條 直稅署收稅屬ヲ以テ物品會計官吏トシ物品ノ保管及之レカ出納ヲ爲サシムヘシ但豫備ノ物品ヲ貯藏スル直稅分署間稅分署ニ在テハ直稅分署收稅屬若クハ間稅分署收稅屬ヲ以テ物品會計官吏トナスヘシ
- 第四條 消耗品中常必要ノモノハ一箇月以内ノ期限ヲ定メ需用概算高ヲ以テ支拂フコトヲ得但概算渡ノ物品ハ遺拂精算ヲ爲サシムヘシ

第五條 物品ヲ大別シテ左ノ二類トス

- 第一類 器具器械備品及第二類ニ屬セサル物品
- 第二類 消耗品

第六條 物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ整理スヘシ但帳簿ノ様式ハ府縣知事適宜之ヲ定ムヘシ

第一類 物品出納

第二類 物品出納簿

第七條 前條帳簿ノ外別ニ補助簿ヲ備フルハ便宜ニ任ス

第八條 物品會計官吏ハ府縣知事ノ定メタル期限ニ於テ帳簿ト現品トノ照合ヲ爲スヘシ

第九條 物品ノ購入及賣却ハ會計法及會計規則ノ定ムル所ニ從ヒ府縣知事之ヲ處理スヘシ但便宜他ノ官吏ニ委任シテ處理セシムルコトヲ得

第十條 官吏以下執務上必要ノ物品ハ府縣知事豫メ其品類及員數ヲ定メテ之ヲ使用セシムヘシ

第十一條 官吏以下專用ノ物品ハ各專用者共用ノ物品ハ別ニ主任ヲ定メ保管ノ責ニ任セシメ物品會計官吏之ヲ監督スヘシ

第十二條 凡ソ故意怠惰ニ由リ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其者ヲシテ物品又ハ代價ヲ以テ辨償セシムヘシ

物品ノ亡失毀損何人ノ所爲ニ出タルコトヲ認知シ難キ場合ニ於テハ其保管者辨償ノ責ニ任スヘシ但避クヘガラサル理由アルトキハ此限リニアラス

第十三條 府縣知事ハ臨時委員ヲ命シ貯藏及使用中ノ物品ヲ檢閲セシムヘシ

第十四條 物品會計規則第十五條ノ物品出納計算書ハ翌年度七月十五日限リ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十五條 前條ノ計算書ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受タル官吏ニ於テ下檢査ヲ執行シ其下檢査書ヲ添付シ期限内ニ之ヲ會計檢査院ヘ送付スヘシ

第十六條 物品會計規則第十一條ノ檢査官吏及第十三條ノ立會人ハ府縣知事之ヲ命スヘシ

第十七條 物品會計規則第十五條第二項但書ノ計算書ハ府縣知事他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十八條 物品出納命令ノ規程及使用中又ハ概算渡ヲ爲シタル物品ノ取扱ニ關スル處務順序ハ府縣知事之ヲ定メ大藏省ヘ申報スヘシ

○採炭請負規則中改正追加

明治二十五年六月 海軍省告示第三號
明治二十四年^六海軍省告示第六號採炭請負規則中左ノ通改正追加ス

第一條中「千基」ヲ「一千斤」ト改ム

第二條中仕書様ノ下「契納書案」ノ四字ヲ加フ

第三條中契約ヲ結ハントスル者ハノ下「鑛山監督署ノ認可書及」ノ十字ヲ加フ

第二十六條ヲ左ノ通改ム

第二十六條 請負人ニ於テ使役スル鑛夫其他入夫等ノ行爲ニシテ若シ官ニ於テ不正ト認マルモノハ其使役ヲ禁止スルコトアルヘシ但使役スル鑛夫其他入夫ノ名簿ヲ採炭所ニ差出スモノトス

陸地測量標條例施行細則ハ法令類編第三卷第二十五類ニ載ス

第二十五類 土地 道路橋梁

○土地

○陸地測量標條例施行細則中改正追加明治二十五年四月陸軍省令第九號

明治二十三年^四月陸軍省令第十二號陸地測量標條例施行細則中左ノ通改正ス
第三條種類ノ一項中「第八」次へ「第九」ノ二字ヲ追加シ以下各項中圖ノ番號ヲ順次繰下ク
附圖第四圖説明中「第六圖」ヲ「第七圖」ニ「三」樣ヲ「四」樣ニ改メ及第五圖ノ次へ左ノ一圖ヲ追加シ以下圖ノ番號ヲ順次繰下ク

第二十六類 國稅

○地租

○變換地取扱方更正 明治二十四年八月
大藏省訓令第六十五號

府縣
沖繩縣
ヲ除ク

變換地取扱心得ハ
法令類編第四卷第
二十六類一丁ニ載ス

明治二十三年十一月當省訓令第四百二十三號變換地取扱方左ノ通更正ス
一 地目若クハ地類ヲ變換シタル旨届出ツルモノアル時ハ其變換セシ地目ヲ
土地臺帳地目ノ傍ニ朱記シ置クヘシ
一 登記ヲ受タル土地ニ係ル場合ト雖モ地目若クハ地類變換ハ其變換地整理
完了ノ後登記法第四十一條ニ據リ地目ノ變更段別ノ増減等併セ通知スヘ
シ

○海關稅

○稅關規則第五十五條追加 明治二十五年四月
勅令第三十八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ稅關規則中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十三年九月勅令第二百三號稅關規則中左ノ通追加ス
第五十五條 帝國政府ノ參同スル外國博覽會及共進會ニ出品スル物品及其
附屬品ハ輸出稅及同品積戻ノ際輸入稅ヲ課スルノ限ニアラス

稅關規則ハ法令類
編第四卷第二十六
類二十四丁ニ載ス

○明治二十三年大藏省訓令第百二十八號中改
 正 明治二十五年五月
 大藏省訓令第三十二號

北海道廳 府縣

明治二十三年大藏省訓令第百二十八號中「町村役場若クハ浦役場」ノ十字ヲ
 「警察署若クハ警察分署」ノ十字ニ改ム

○北海道水産稅

○北海道水産稅品產出高及其價額報告方 明治二
 八月大藏省訓
 令第六十四號

北海道廳

明治二十年^五月當省第二九六五號ヲ以テ北海道水産稅品產出高及其價額報告
 方相達置候處自今其年一月ヨリ六月マテノ分ヲ九月ニ七月ヨリ十二月マテ
 ノ分ヲ翌年三月ニ從前ノ樣式ニ據リ主稅局ヘ報告スヘシ

○北海道水産稅則施行細則 明治二十五年六月
 大藏省令第六號

明治二十年^四月大藏省令第六號北海道水産稅則施行細則左ノ通改正ス
 北海道水産稅則施行細則

第一條 水産稅ノ納期及其納額割合ハ左ノ如シ但組合會ノ評決ヲ以テ每納
 期ノ納額割合ヲ繰上ケ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其繰上ケヘキ割
 合ヲ定メ郡區長ヲ經由シテ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

渡島國(函館區除ク) 後志國 石狩國(石狩郡ヲ除ク) 天鹽國 北見國
 第一期 六月一日ヨリ 六月三十日限リ 百分ノ四十

但北海道廳長官ハ各地方漁業ノ期節ニ依リ必要アリト認ムルトキハ本
 項ノ納期ヲ七月三十一日マテ繰下クルコトヲ得此場合ニ於テハ其事由
 ヲ具シ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二期 八月一日ヨリ 百分ノ四十
 第三期 十月一日ヨリ 百分ノ七
 第四期 十二月一日ヨリ 百分ノ七
 第五期 翌年三月一日ヨリ 百分ノ六
 膽振國 日高國 十勝國 釧路國 根室國 千島國 石狩國石狩郡
 渡島國函館區龜田郡

第一期 六月一日ヨリ 百分ノ五
 第二期 八月一日ヨリ 百分ノ二十
 第三期 十月一日ヨリ 百分ノ二十五
 第四期 十二月一日ヨリ 百分ノ二十五

第五期 同三月三十一日限リ 百分ノ二十五

第二條 納稅委員ハ毎年水產物每種類產出ノ終リタルトキ其組合ニ於テ產出ノ水產物總高並價格ヲ調査シテ取調書ヲ製シ戶長ヲ經由シテ之ヲ郡區長ニ届出ツヘシ但其產出ノ季節ヲ限ラサルモノハ前半年分ヲ其年八月ニ後半年分ヲ翌年二月ニ取調ヘ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 水產物ノ總高取調ニ關シ水產物營業人ニ於テ其水產物產出高及價格ヲ偽リ又ハ納稅委員ノ調査ヲ拒ムトキハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス但產出高及價格ヲ偽リタルモノ自首スルトキハ其罪ヲ問ハス

第四條 北海道廳長官ハ必要アリト認ムルトキハ各組合水產物產出高並價格届出ノ正否及稅金賦課徵收方法等ノ實況ヲ検査スルコトアルヘシ

○徵稅

○酒造稅納稅保證等ニ關シ他ノ地方管内現住者ニ對シ訴求アル片引繼及取扱方明治二十四年十月大藏省訓令第 七十四號

酒造稅則ノ納稅保證烟草稅則ノ證約金及印紙類賣下代金ニ關シ他ノ地方管

北海道廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

内現住ノ者ニ對シ訴求ヲ要スルモノアルトキハ關係書類ヲ添ヘ之ヲ其管廳ヘ引繼クヘシ其引繼ヲ受ケタル管廳ハ直ニ其旨ヲ本人ヘ通告シ相當ノ取扱ヲ爲スヘシ

○國稅賦課現計書及報告表調製手續明治二十四年十月大藏省訓令第 七十五號

北海道廳 府縣

國稅賦課現計書及ヒ報告表左ノ手續ニ據リ調製シ本年度分ヨリ當省ヘ送付スヘシ

但明治二十三年三當省訓令第二十九號及ヒ本年六同訓令第五十二號ハ二十四年度分ヨリ廢止ス

一現計書ハ別紙甲號様式ニ倣ヒ地租ハ曆年其他ノ國稅ハ會計年度ノ區分ニ隨ヒ其年度間ニ賦課シタル物件ノ員數並ニ租稅額ヲ掲記シ翌年度五月十五日限リ送付スヘシ

但様式ハ主稅局ヨリ送付ス (様式略ス)

二現計書送付後該書ノ記載誤リ或ハ組違ヘ等發見セシトキハ年度經過後七箇月以内ニ該現計書ノ訂正方申請スヘシ

三本年度所屬ニシテ翌年四月一日以降發見ニ係ル賦課洩ハ會計規則第一條

第二ニ過誤納下戻シハ同規則第二條第二ニ依リ發見年度ニ於テ整理スヘシ

四用紙ハ明治二十三年當省訓令第四百十一號ニ依リ調製スヘシ
五報告表ハ別紙乙號様式ニ倣ヒ調製送付スヘシ

但様式ハ主税局ヨリ送付ス (様式略ス)

六沖繩縣酒造免許稅ハ(燒酎、酒精、何々)及ヒ過年度收入分ハ(何年度分追徵)

ト各仕譯書但書中ニ附記スヘシ

但地租表並ニ酒造免許稅日本形大船稅ノ様式ハ從來ノ例ニ依リ調製送

付スヘシ

七報告表中本年十月以前ニ報告スヘキ分ハ本年ニ限リ十一月三十日限リ送付スヘシ

○明治二十五年二月大藏省訓令第八號 北海道廳 府縣

明治二十四年十月當省訓令第七十五號 國稅賦課現計書中左ノ各項ハ二十五年度分ヨリ別記様式ニ據リ報告スヘシ

一 烟草營業鑑札料及仕入出賣鑑札料

一 菓子營業鑑札料及仕入出賣鑑札料

一 賣藥營業鑑札料

一 以上各種鑑札再渡手数料

一 銃獵免狀再渡手数料

一 牛馬賣買免許鑑札再渡手数料

○手数料納付方 明治二十四年十二月 勅令第二百四十五號

朕登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ納ムヘキ手数料ハ其金額ニ相當スル登記印紙ヲ以テ納メシムルコト

ヲ得但其種目ハ主務大臣之ヲ定ム

本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

○手数料トシテ納ムヘキ登記印紙貼用方 明治二十五年

二月大藏省 令第三號

明治二十四年十月勅令第二百四十五號ニ依リ登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ム

ルトキハ其金額ニ相當スル印紙ヲ願書其他ノ書類ニ貼用シ署名ノ下ニ押捺

スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケ消印スヘシ

○同上 明治二十五年三月 遞信省令第五號

明治二十四年十月勅令第二百四十五號ニ依リ登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ム

ルトキハ其金額ニ相當スル印紙ヲ願書其他ノ書類ニ貼用シ署名ノ下ニ押捺

スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印スヘシ

○同上明治二十五年四月
文部省告示第三號

本年^三文部省令第四號ニ依リ登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルニハ學校教員
學力試驗手数料ニ係ルモノハ地方廳ニ於テ願書ノ查閱ヲ受ケタル後其願書
ニ學校教員免許狀授與手数料ニ係ルモノハ免許狀受領ノトキ其受領書ニ印
紙ヲ貼付シ消印スヘシ

○登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目
明治二十五年二月
大藏省令
第四號

- 明治二十四年^{十二}勅令第二百四十五號ニ依リ登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手
料種目左ノ如シ
- 一 烟草營業鑑札料及仕入出賣鑑札料
 - 二 菓子營業鑑札料及出賣鑑札料
 - 三 賣藥營業鑑札料
 - 四 以上各種鑑札再渡手数料
 - 五 銃獵免狀再渡手数料
 - 六 牛馬賣買再渡手数料

七 土地賣帳謄本手数料

○登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料ノ種目
明治二十五年
三月內務省
令第一號

- 明治二十五年四月一日ヨリ左ノ種目ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ
- 醫術開業免狀手数料
 - 醫術開業免狀書換手数料
 - 藥劑師免許手数料
 - 藥劑師免狀書換手数料
 - 藥品其他檢査手数料
 - 藥品其他再檢査手数料
 - 版權登錄料
 - 版權免許料舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タルモノニ限ル
 - 版權登錄證再度下付手数料
 - 版權免許證明書下付手数料
 - 右種目ノ內版權登錄料ニ限リ先ツ版權登錄願書ノミヲ差出シ庶務局ノ通知ヲ得タル後更ニ其願書ニ登記印紙ヲ貼用シテ差出スコトヲ得

○同上明治二十五年二月
農商務省令第二號

- 明治二十五年四月一日ヨリ左ノ種目ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ
- 獸醫免許手数料
 - 同書換手数料
 - 蹄鐵工免許手数料
 - 同書換手数料
 - 特許登錄意匠登錄商標ニ關スル書類謄本手数料

同圖面調製手数料

○同上 明治二十五年二月
文部省令第四號

明治二十四年^{十二}勅令第二百四十五號ニ依リ本年四月一日ヨリ登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目左ノ如シ

學校教員學力試驗手数料 學校教員免許狀授與手数料

○同上 明治二十五年三月
逓信省令第六號

明治二十四年^{十二}勅令第二百四十五號ニ依リ登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目左ノ如シ

海員技術試驗手数料 海員免狀手数料 水先免狀手数料

○賣藥營業免許鑑札料登記印紙貼用方 明治二十五年四月
大藏省訓令
第十八號

大藏省訓令
第十八號

北海道廳 府縣^{沖繩縣ヲ除ク}

賣藥營業免許鑑札料登記印紙貼用方ハ願書ニ印紙ヲ貼用セス鑑札下付ノ際印紙ヲ貼用シタル鑑札領収證ヲ出サシムヘシ

○鑛業稅及鑛區稅徵收取扱方 明治二十五年四月大
藏省訓令第二十二號

北海道廳 府縣

本年六月一日ヨリ鑛業條例施行ニ付鑛業稅及ヒ鑛區稅徵收取扱方左ノ通心得ヘシ

一北海道廳長官府縣知事ハ鑛業稅及ヒ鑛區稅臺帳ヲ設ケ毎納期前鑛山監督署長ヨリ鑛業人ノ住所氏名及ヒ納稅額等ノ通知ヲ受ケ之ヲ整理スヘシ但開業廢業其他通知ヲ受クヘキ手續ハ豫メ鑛山監督署長ト協議シ置クヘシ
一鑛業稅又ハ鑛區稅ヲ滯納スル者アルトキハ其都度滯納者ノ住所氏名及ヒ稅目金額ヲ收入官吏ヨリ鑛山監督署長ヘ通知セシムヘシ

○震災地方租稅特別處分法 明治二十五年六月
法律第一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル震災地方租稅特別處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

震災地方租稅特別處分法

第一條 本法ハ三重縣愛知縣滋賀縣岐阜縣及福井縣ニ限り明治二十四年十月二十八日ノ震災ニ因リテ生シタル損害ニ適用ス

第二條 水源涸渴水路破滅等ノ爲地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ハ明治二十四年分ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第三條 荒地ニ至ラサルモ土地ニ變動ヲ生シタル爲又ハ其ノ餘害ヲ受ケタ

ル爲收利ノ減損甚シキ土地ハ其ノ實況ニ依リ明治二十四年ヨリ十年以内七割以下ノ低價年期ヲ附與スルコトヲ得

第四條 過半ノ家屋燒失若ハ壞倒シ營業ノ景狀容易ニ回復シ難キ市街若ハ市街ニ準スヘキ部落ハ其ノ實況ニ依リ明治二十四年ヨリ七年以内七割以下ノ低價年期ヲ其ノ地ノ宅地ニ附與スルコトヲ得

第五條 第三條第四條ノ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルコトヲ得

第六條 地租條例第二十條又ハ本法第二條第三條ノ處分ヲ爲シタル土地ニ係ル地租延納年賦金ハ之ヲ免除ス

第七條 居住家屋ノ燒失又ハ其ノ他ノ損害ヲ受タルモノハ被害ノ景況ニ依リ明治二十四年分地租未納金ハ明治二十五年ヨリ三年以内延納ヲ許スコトヲ得

第八條 酒造又ハ醬油營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ震災前檢査濟ニ係ル未納造石稅ヲ減免スルコトヲ得

第九條 醬油菓子賣藥烟草度量衡ノ營業者ニシテ營業用建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ左ニ掲クル稅金ニ限リ減免スルコトヲ得

一 菓子製造稅度量衡稅ハ明治二十四年後半年分ノ稅金

一 醬油營業稅菓子營業稅賣藥營業稅烟草營業稅ハ明治二十五年前半年分ノ稅金

第十條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ租稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第十一條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十二條 本法ニ依リ處分ヲ受ケントスル者ハ明治二十五年八月三十一日マテニ申出ヘシ若此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受ルコトヲ得ス

○分析試驗ニ關スル手数料徵收ノ件 明治二十五年七月勅令

第六十三號

朕農商務省地質調査所ニ於テ爲ス分析試驗ニ關スル手数料徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 農商務省地質調査所ニ分析試驗ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ム可シ

- 一 一性分ノ定性分析ハ金一圓トス一定性ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ
- 二 礦物、工業用原料、製造品等中一性分ノ定量分析ハ金二圓トス一定量ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ

- 三 一金屬ノ乾式定量分析ハ金二圓トス一定量ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
- 四 礦物類ノ比重、硬度等ノ檢定ハ一廉毎ニ金五十錢トス
- 五 耐火材料用ノ粘土、煉化石等ノ火熱ニ於ケル實驗、陶磁器、煉化石、「セメント」原料用粘土類ノ器械分析及ヒ應用試驗ハ金二圓以上金三圓以下トシ試驗ノ難易ニ從ヒ農商務省地質調査所長ノ定ムル所ニ依ル
- 六 器械油等ノ比重、粘力、引火點、凝結點、沸騰點、熔融點、乾燥質ノ試驗ハ一廉毎ニ金五十錢トス金屬ニ於ケル作用、酸類及ヒ「アルカリ」ノ作用、酸類ノ定量、分留、沃度化合數、鹼化數等ノ試驗ハ第二號ニ準ス
- 七 建築材料等ノ吸水力、耐壓力、耐延力、凍寒ニ於ケル作用、石灰ノ「モルタル」製出力等ノ試驗ハ一廉毎ニ金一圓トス
- 八 「セメント」ノ比重、一定容量ノ重量、硬化ノ時間、粉末ノ細粗、硬化ノ際膨脹ノ程度、龜裂ノ現象等ノ試驗ハ一廉毎ニ金五十錢硬力即チ耐壓力並ニ耐延力等ノ檢定ハ一廉毎ニ金一圓以上金十圓以下トシ試驗ノ難易ニ從ヒ農商務省地質調査所長ノ定ムル所ニ依ル
- 九 右各號外ニシテ化學工業ニ屬スルモノト認ムル試驗手数料ハ前示割合ニ準シ時々農商務省地質調査所長ノ定ムル所ニ依ル
- 十 時日ヲ限リ分析試驗ヲ依頼スルトキハ前示手数料ノ二倍トシ同人ニ

一四

- シテ同種類ノモノ五箇以上ノ試驗ヲ同時ニ依頼スルトキハ前示手数料ノ二割ヲ減ス
- 第二條 前條ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ム可シ
 - 第三條 本令ハ明治二十五年八月一日ヨリ施行ス
- 怠納處分

○國稅滯納處分報告表調製様式

明治二十五年二月
大藏省訓令第五號

府縣
沖繩縣
ヲ除ク

國稅滯納處分報告表明治二十四年度分ヨリ左ノ様式ニ倣ヒ調製シ翌年度五月二十日迄ニ主稅局ヘ送付スヘシ
但地方稅滯納處分ノ儀ハ本文ニ準シ同様報告スヘシ

第二十七類 地方税 備荒儲蓄

○備荒儲蓄

○備荒儲蓄金取扱順序ニ屬スル収支科目中改

正明治二十五年三月
大藏省訓令第十六號

府縣沖細縣
ヲ除ク

二十三年三月大藏省訓令第三十四號備荒儲蓄金取扱順序ニ屬スル収支科目
中左ノ通改正ス

備荒儲蓄金取扱順
序ハ法令類編第三
卷第二十七類四丁
ニ載ス

收入ノ部

- 項 公債證書當籤ヲ公債證書償還ト改ム
- 同 益金ノ次位へ公債證書交換受ノ項ヲ設ク
- 公債證書償還ノ項中當籤、末期償還、賦金ノ目ヲ設ク
- 益金ノ項中公債證書當籤益ノ次位へ公債證書末期償還益、公債證書賦金
益ノ目ヲ設ク

支出ノ部

- 項 公債證書買入代ノ次位へ公債證書交換拂ノ項ヲ設ク
- 缺損金ノ項中公債證書當籤損金ノ次位へ公債證書末期償還損金ノ目ヲ設
ク

第二十八類 社寺

○社寺

○官國幣社神職奉務規則

明治二十四年八月
內務省訓令第十七號

北海道廳 府縣

官國幣社神職奉務規則左ノ通相定ム

官國幣社神職奉務規則

- 第一條 官國幣社神職ハ國家ノ宗祀ニ從事シ國家ノ禮典ヲ代表スル職務タルヲ以平素國體ヲ辨シ國典ヲ修メ躬行ヲ正シクシテ以テ本務ヲ盡スヘシ
- 第二條 官國幣社祭典ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齊肅恭敬首トシテ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ
- 第三條 祈年新嘗例祭等總テ官祭ノ典則ハ非常ノ事故ニアラサレハ成規ノ時間ヲ猥リニ伸縮スヘカラス
- 第四條 祭祀典則ハ舊來ノ儀式ヲ遵守シ其社ノ禮祭民俗因襲ノ神賑等適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ地方廳及所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

- 第五條 人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ナシト雖トモ苟モ貪汚

ノ所爲アルヘカラス

第六條 社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス
悠久ノ保存ヲ要ス

第七條 神社所藏ノ資物什器古文書類等常ニ散失ナキ様監護シ神社所有ノ
財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第八條 神社ノ財産中人民ノ寄附ニ係リ永遠ノ目的ヲ以テ備ヘタル土地金
穀ヲ變更セントスル場合ハ官國幣社ト雖トモ氏子又ハ講社アルトキハ其
總代協議ノ上地方廳ノ許可ヲ得ヘシ

第九條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損
害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

○佛道各宗脈管長ヲシテ宗規ノ戒飾方ニ一層

注意シ竝ニ一宗ノ安寧ヲ保持セシム

內務省訓令
第二十二號

明治二十
四年九月

佛道各宗ハ慈悲忍辱ヲ旨トシ衆生濟度ヲ目的ト爲シ宗祖先德ノ芳躅ヲ追踐
シ其本分ヲ恪守シ布教傳道ニ從事スヘキハ現ニ其宗制ニ掲ケ本大臣ニ於テ
是ヲ認可セシ處ナリ然ルニ近來各宗ノ内往々黨ヲ樹テ社ヲ結ヒ互ニ名利ヲ

爭ヒ健訟ノ風釀來スル弊有之僧侶ニシテ有間敷所業ニ付各管長ニ於テ自ら
率先シ德義ノ上進ヲ冀圖シ風紀ノ頽廢ヲ匡正シ殊ニ宗務所ノ如キハ管長ノ
指示ヲ受ケ宗内諸般ノ事務ヲ掌理スル場所ナルニ依リ公平無私ニシテ宗内
德望アルモノヲ登庸スル等總テ宗規ノ戒飾方ニ一層注意スヘシ是レ特ニ管
長ノ注意ヲ要スルノミナラス宗内各自ノ戒飾茲ニ出スシテ仍ホ其弊ヲ矯正
スルコト能ハサルトキハ本大臣監督上臨機ノ處分ヲ爲スハ格別トシ其一宗
ノ自カラ衰亡ニ歸スルハ必然ニ可有之假令其宗名ヲ存スルモ既ニ其實ヲ失
ヒ宗祖先德ニ對シ實ニ面目ナキ次第ニ可立至就テハ自今猛省警悟シテ一宗
ノ安寧ヲ保持スヘシ

○官國幣社神職試驗規則

明治二十五年三月
內務省訓令第四號

北海道廳 府縣
神職ヲ除ク

官國幣社神職試驗規則左ノ通相定ム

官國幣社神職試驗規則

第一條 神職試驗ハ高等尋常ノ二種ニ分ツ

第二條 官司權官司ハ高等試驗合格ノ者禰宜主典ハ尋常試驗合格ノ者ヲ以
テ之ニ充ツ

第三條 高等試驗ハ內務省ニ委員ヲ設ケ本省ニ於テ施行ス尋常試驗ハ各地

方廳ニ委員ヲ置キ施行スヘシ

但高等試験ト雖トモ時宜ニヨリ地方廳ニ於テ施行スルコトアルヘシ尤
問題及試験成績等ハ本省ニ於テ撰定スヘシ

第四條 尋常試験ハ施行前其地方廳ニ於テ豫メ問題取調本省ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第五條 試験合格者高等試験者ヘハ内務省ヨリ尋常試験者ヘハ其廳府縣ヨ
リ合格證書ヲ付與スヘシ

第六條 宮司權宮司撰擧ノ節ハ高等試験合格證書寫ヲ添本大臣ヘ差出スヘシ

第七條 禰宜主典ハ其地方長官限リ申付其都度本大臣ヘ報告スヘシ

第八條 試験科目ヲ分ツ左ノ如シ

高等試験科目

六國史

問題說明
書取

令義解 同上

延喜式

同上

萬葉集 同上

法曹至要抄

同上

考證一題

作文二題

宣命體
公文體

尋常試験科目

古事記

讀後
書取

土佐日記 同上

職原抄

同上

祝詞式 同上

作文二題

祝詞
公文體

第九條 本試験合格證書所持ノ者ハ官國幣社神職中該證書相當ノ位置ヘ轉
補又ハ再補スルコトヲ得

第十條 左ニ掲クルモノハ試験ヲ要セス直ニ宮司權宮司ニ補スルコトヲ得

一 其神社神統又ハ維新前十代以上該神社ヘ奉任セシ重立タル者及ヒ其
子孫

二 其神社祭神ノ一族臣下ノ内祭神在世ニ於テ功蹟顯著史乘ニ著名アル
者ノ統末

三 行政官吏判任官四等八級俸以上滿三年以上奉職セシ者

四 皇典講究所學階一等司業以上ノ者

五 該神社所在地ノ舊藩主

六 維新前王事執掌ノ功ニ依リ官ノ褒賞ヲ受ケタル者

但以上六項ニ該當スル者ト雖トモ現時ノ性行其他不適當ト認ムル
モノハ採用ノ限ニアラス

第十一條 左ニ掲クルモノハ試験ヲ要セス直ニ禰宜主典ニ申付ルコトヲ得

一 維新前五代以上該神社ヘ奉任セシ者及ヒ其子孫
二 行政官吏判任官以上滿二年以上奉職セシ者
三 皇典講究所學階五等司業以上ノ者

但性行其他不適當ト認ムルモノハ前同斷

第十二條 本規則施行前ヨリ在職ノ者ハ試験ヲ要セス其現職ニ在ルコトヲ得

第十三條 官幣小社波上宮別格官幣社靖國神社神職ハ本規則ニ不拘從來ノ取扱ニ據ル

第十四條 採用スヘキ人員及職名試験期日等ハ其時々官報又ハ新聞紙其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第十五條 本規則ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

○府縣社以下神官タルヲ得ヘキ資格明治二十五年三月内務

省訓令 第五號

北海道廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

府縣社以下神官ノ儀ハ自今左ニ掲クルモノニシテ性行其他適當ト認ムル者ハ皇典講究所學階試験ニ不拘神官タルノ認可ヲ與フヘシ

祠官

一 維新前五代以上其神社へ奉仕セシ者及ヒ其子孫

一 明治十五年八月以前ヨリ奉職勤績ノ者

但現職祠掌ヨリ祠官ニ選舉スルハ此限ニアラス

一 有位者又ハ判任官以上滿二年俸職セシ者

一 該神社所在ノ府縣ニ於テ一箇年直接國稅十圓以上ヲ納ムル者

祠掌

一 維新前五代以上其神社へ奉職セシ者及ヒ其子孫

一 明治十五年八月以前ヨリ奉職勤績ノ者

一 該神社所在地ノ町村長三年以上奉職セシ者

第二十九類 勸業 鑛山 森林

○勸業

○獸醫蹄鐵工免許及書換手數料納付方 明治二十五年二月

農務省告示
第三號

農商務省令第二號ニ據リ獸醫蹄鐵工免許及書換手數料トシテ納付スヘキ登記印紙ハ免狀下付ノトキ受領書ニ貼付シ消印スヘシ

○茶業組合規則中更正追加 明治二十五年三月
農商務省令第五號

明治二十年^{十二}月^{十二}農商務省令第四號茶業組合規則中左ノ條項及但書ヲ更正追加ス

第九條中 組合及聯合會議所ノ規約ノ下^二及豫算^二中央會議所ノ規約ノ下^二及豫算^一ノ文字ヲ加フ

第十三條 但書ヲ左ノ如ク更正ス

但組長ヲ選任又ハ改選シタル^レ地方長官ノ認可ヲ受ケ委員ヲ選任又ハ改選シタル^レ其都度届出ツヘシ

第二十二條中 全國組合員ヨリノ下^二定員倍數ノ候補者ヲ選定シ農務大

臣ノ認定ヲ請フヘシト更正ス

第二十三條ノ次ヘ左ノ條ヲ挿入シ以下順次繰下ク

第二十四條 役員ノ任期ハ二箇年トス若シ役員其任ニ適セサルハ中央會議所ノ事務員ハ農商務大臣ニ於テ聯合會議所ノ事務員及組合事務所ノ組長ハ地方長官ニ於テ其改選ヲ命スヘシ

但補闕役員ノ任期ハ前任役員ノ任期ニ依ルヘシ

○茶業組合規則中役員議員ノ任期及資格年限

計算方 明治二十五年三月
農商務省訓令第五號

本年三月 農商務省令第五號中第二十四條ノ役員及第三十一條ノ議員任期ハ本年四月一日ヨリ起算シ第二十八條ノ議員資格年限ハ選舉ノ日ヨリ溯算スルモノトス

府縣 群馬縣、山梨縣、長野縣、福島縣、宮城縣、岩手縣、青森縣、秋田縣、山形縣、香川縣、沖繩縣、ヲ除ク

○鑛山

○鑛山條例實施前許可ヲ得タル鑛業者初年ノ

鑛區稅納付方 明治二十四年八月
大藏省令第二十一號

鑛業條例附則第八十九條ニ據リ鑛業ヲ爲ス者ノ初年ノ鑛區稅ハ同條例第七

十五條第二項ニ準シ月割ヲ以テ條例施行後六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

○日本坑法第三十一款ニ據リ納ムヘキ明治二

十五年分鑛山借區稅納付方 明治二十四年八月
農商務省令第十號

日本坑法第卅一款ニ據リ納ムヘキ來ル明治二十五年分鑛山借區稅ハ同年一月ヨリ五明迄ノ分ヲ同年一月ニ於テ月割納付スヘシ

但同年一月ヨリ五月迄ニ新規許可モノハ借區券下付ノ節其時々五月迄ノ分ヲ納ムヘシ

○試掘借區願書及圖面中不完全ノモノアルハ

處分方 明治二十四年十月
農商務省令第十二號

試掘又ハ借區願書若クハ之ニ添屬スル圖面ニ不完全ノ廉アルトキ處分方左ノ通相定ム

第一條 試掘又ハ借區願書若クハ之ニ添屬スル圖面ニ不完全ノ廉アルトキ

ハ地方長官ヲシテ其訂正ヲ出願人ニ通知セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ訂正願書又ハ圖面ヲ地方官廳ニ差出サ、ルトキハ其出願ヲ無効トス

但天災其他積雪等ノ爲メニ此ノ期限内ニ差出シ難キ事情アルトキハ本文ノ期限内ニ延期出願スルコトヲ得

第二條 此省令施行以前ニ前條ノ願書若クハ圖面ノ訂正通知ヲ受ケタルモノハ明治二十四年十一月三十日迄ニ訂正願書又ハ圖面ヲ差出ス可シ
前項期限内ニ差出サ、ルトキハ其出願ヲ無効トス

第三條 此省令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

○明治七年工部省第三十號布達廢止
明治二十四年十月農商務省令
第十三號

明治七年^{十二}工部省第三十號布達ハ自今之ヲ廢止ス

○二箇以上借區合併一借區ト爲シ許可ヲ得シ

キノ借區年限^{明治二十五年一月}農商務省告示第十一號

二箇以上ノ借區ヲ爲スノ許可ヲ得タルトキ其借區年限ハ原借區中最後許可ヲ得タル借區ノ年限ニ據ルモノトス

○鑛業條例施行細則^{明治二十五年三月}農商務省令第六號
鑛業條例施行細則左ノ通相定ム

鑛業條例施行細則

第一條 鑛業條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第十號ニ至ル書式ニ從ヒ

之ヲ認メ明治二十五年勅令第二十六號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

試掘地圖鑛區圖鑛業施業案鑛業條例第三十九條ノ届書及同條例第四十條ノ帳簿ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル離形ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第二條 鑛業條例第十二條第二項ニ依リ願書ノミヲ差出ストキハ第一號離形ノ圖面ヲ添ヘ之ニ鑛物存在ノ箇處ヲ明示スヘシ

第三條 試掘地ノ區域ハ鑛業條例第四十一條第二項ニ依ルヘシ

第四條 試掘地若クハ鑛區ノ最短徑ハ其最長徑ノ四分ノ一ヨリ下ルコトヲ得ス

但所轄鑛山監督署長ニ於テ適當ノ鑛區ト認ムルキハ本文ノ制限ニ依ラサルコトヲ得^(明治二十五年六月農商務省令第十一號ヲ以テ追加)

第五條 他人ノ試掘地若クハ鑛區ニ接近シ試掘地若クハ鑛區ヲ得ントスル者ハ其中間ニ十間以上ノ距離ヲ置キ出願スヘシ

但鑛業人ノ承諾ヲ經タルモノハ此限ニ非ラス

第六條 鑛業ニ關スル願書若クハ圖面不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ修正若クハ補充セシムヘシ

第七條 試掘又ハ探掘ヲ出願シタルトキ及ヒ試掘願書探掘願書又ハ其添付圖面ヲ修正若クハ補充シタルトキハ三日以内ニ其書類又ハ圖面ノ寫ヲ添